

一般社団法人日本鉱物科学会 2021年度 定時総会 資料 決算及び事業報告

日時：2022年9月17日（土）14：30～15：50

場所：新潟大学五十嵐キャンパス 総合教育研究棟 E棟2階 E260室
（〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地）

議長選出：（ _____ ） 会員

開会宣言：

議長は、本日の定時総会が、web会議システムを利用し行う旨を述べ、出席者が一堂に会するのと同等に適時・的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認してから、開会宣言をすること。

定足数の確認：809名×10分の1以上＝81人以上 （ _____ ）名

当日(ZOOM参加含)（ _____ ）人（ZOOM _____ 人）+委任状(____)人+書面議決書(_____ 人)

物故会員への黙祷： うらしま ゆきとし 浦嶋 幸世 永年会員 しらき けいいち 白木 敬一 永年会員 こじま ひでやす 小島 秀康 シニア会員

会長挨拶

目的事項

報告事項

- ・2021年度（一般社団法人第6期）事業報告
（和文誌，英文誌編集，行事，広報，渉外，庶務，Elements，会員，その他）
- ・2022年度（一般社団法人第7期）事業計画書及び収支予算などの件
- ・新名誉会員の紹介

その他

決議事項

- ・第1号議案 2021年度（一般社団法人第6期）事業報告承認，決算承認の件
- ・第2号議案 役員（理事、監事）選任の件

資料: 2021年度定時総会資料 決算及び事業報告

1. 2022年度収支予算
2. 2021年度決算報告
 - 1) 貸借対照表
 - 2) 正味財産増減計算書
 - 3) 財務諸表に対する注記
 - 4) 附属明細書
3. 監査報告書

閉会宣言

授賞式

- 一、日本鉱物科学会賞授与
- 一、渡邊萬次郎賞授与
- 一、日本鉱物科学会論文賞授与
- 一、日本鉱物科学会研究奨励賞授与
- 一、日本鉱物科学会応用鉱物科学賞授与
- 一、JMPS学生論文賞授与
- 一、名誉会員認定書授与

報告事項

I. 2021年度事業報告（一般社団法人第6期 2021年8月1日～2022年7月31日）

宮脇 律郎 会長 挨拶

一言ご挨拶申し上げます。

恒例により、一般社団法人日本鉱物科学会が定款に定める事業の概要を確認します。

本会は、目的として鉱物科学及びこれに関連する諸分野の学問の進歩と普及をはかることを定款第3条に定め、それを達成するため、第4条で次の事業を行うと記しています。

- (1) 和文誌（岩石鉱物科学）、英文誌（Journal of Mineralogical and Petrological Sciences）、その他の冊子版、電子版による発行
- (2) 総会、講演会、研究部会、その他学術に関する集会及び行事の開催
- (3) 研究の奨励及び業績の表彰
- (4) その他本会の目的を達成するために必要な事業

2021年度は一般社団法人日本鉱物科学会として第6期になります。コロナ禍や戦争など平穏な社会を脅かす日々が続いています。会員の皆様には、このように困難な状況の下で、学会活動へご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

一昨年、昨年と2回にわたり、LOC、行事委員会そして事務局の大変なご苦労により、年会・総会をハイブリッド型式で準備し、直前にオンライン開催に切り替え、難関を乗り越え、本会の事業の中核を遂行することができました。また会員の皆様には、ご不便を強いながら、ご理解とご協力をいただき、このような状況でも、新しい運営方法を模索し、多くの参加者を得て、活発な議論を展開できたことは、学会の目的に向かって途切れる事無く進むことができたこと、嬉しく思います。

このたびの2022年年会についても、社会状況の変化に対応できるように、新潟大学での現地開催とオンライン開催のハイブリッド方式で準備をいただきました。研究成果の公表や討論の場が、新たな方式を育みつつあることは、鉱物科学及びこれに関連する諸分野の学問の進歩と普及に向けた学会の姿勢が堅持され、「禍転じて福と成す」となくことを期待させるものです。改めて、開催にご尽力をいただいた皆様に深く感謝申し上げます。

本会の運営は、未だ大変厳しい状況にあります。この2年間、執行部、理事は、学会事業の見直しを検討してきました。財政の健全化を図るため、学会誌の完全電子化を成し遂げ、さらに事務局と役員業務の改革を模索してまいりました。学術活動に専念できる体制を整え、会員のみならず、社会にも貢献する活気を取り戻す道筋も見えてきたと思います。引き続き皆様の積極的な参加をお願い申し上げます。ご挨拶いたします。

以下の個別の事業状況については、各業務の各担当幹事等より報告いたします。

(1) 和文誌(岩石鉱物科学)、英文誌(Journal of Mineralogical and Petrological Sciences)、その他の冊子版、電子版による発行事業

【1】和文誌(岩石鉱物科学)編集報告（高澤和文誌編集幹事・委員長）

1. 2022年8月24日第3回定例理事会報告 和文誌編集報告

1. 岩石鉱物科学51巻1号掲載内容

51巻1号	件数	頁
原著論文	1件	0p
短報	0件	0p
総説	0件	0p
資料・解説	7件	79p
訂正	0件	0p
合計頁		79頁

編集状況報告（2022年5月21日～2022年8月24日現在まで）

(1) 発行状況：51巻1号電子ジャーナル2編公開

- ・日本鉱物科学会賞第25回受賞者---辻森 樹
プレート境界岩総合解析によるオロゲン地質記録と変成プロセスの研究
- ・日本鉱物科学会研究奨励賞第30回受賞者---瀧川 晶
宇宙鉱物学が拓く銀河物質循環

(2) 現在査読中論文：1編

2. 2022年6月13日開催第5回GKK編集委員会報告

- (1) GKKの論文にTwitter等ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の情報を使用する場合に、引用元を情報をどのように提示したら良いかについて審議を行った結果、引用文献に加え、電子付録にTwitter等の受信記録を一覧として示すこととなった。
- (2) GKKカテゴリ一別担当者の配置について確認した。

依頼原稿カテゴリ担当分担（5/21編集委員会で承認済）			
総説	久保友明	野口高明	高澤栄一
解説・資料	興野純	中村美千彦	宮原正明
勘どころ	浜田麻希	大藤弘明	小暮敏博
最近の研究から	栗林貴弘	栗谷豪	近藤忠
日本新産鉱物	門馬綱一	永島真理子	下林典正
博物館	星出隆志	坂野靖行	坂本尚義
フィールド紹介	伴雅雄	掛川武	(高澤栄一)
博士課程・若手紹介	三宅亮	阿部なつ江	遠藤俊祐
*1列目の方が班長			

- (3) J-STAGE Dataの利用に関するJSTとの意見交換会を6月15日(水)に実施することについて周知した。

2. 2022年5月21日第2回定例理事会報告 和文誌編集報告

1. 編集状況報告（2022年5月18日現在報告）

(1) 電子ジャーナル公開状況：岩石鉱物科学2022年51巻1号電子ジャーナル公開中

2020年度受賞記念研究紹介

三河内 岳(日本鉱物科学会賞第24回受賞者): 太陽系での天体進化プロセスの解明を目指して: 多様な地球外物質の鉱物学的研究によるアプローチ

資料

高橋 裕平：2021年の地質鉱物関連英文ニュース誌の話題「鉱物資源，石材，およびアントロポセン課題」

日本新産鉱物情報

松原 聡 日本新産鉱物情報（2021年）

2020年度受賞記念研究紹介

田村 堅志(日本鉱物科学会応用鉱物科学賞第13回受賞者)機能性粘土材料の設計による環境配慮型ポリマーナノコンポジットと高性能吸着剤の開発

2020年度受賞記念研究紹介

田阪 美樹(日本鉱物科学会研究奨励賞第29回受賞者)かんらん岩の高歪みねじり実験から探るマントル・レオロジー

(2) 現在査読中論文：3編 受賞者紹介記事 2 編，原著論文 1 編

2. GKK編集委員会報告(2022年5月21日12:00-13:00)：依頼原稿の8つのカテゴリーに対し、各担当者を決定(計23名)。今後、運用をどのように進めるか検討中。

3. 2022年3月31日第2回臨時理事会報告 和文誌編集報告

1. 編集状況報告 (2022年3月28日現在報告)

2021年12月13日第1回定例理事会報告以降の状況を以下の通り報告いたします。

1)発行状況：51巻1号：電子ジャーナル早期公開中：受賞紹介2編，資料他1編

2)現在受理論文：受賞紹介1編

3)現在査読中論文：受賞紹介2編

2. 編集委員会報告

(1)第2回編集委員会(2022年1月17日開催)

1)巻と号を付け、通常号は1号から開始し、Special Issueの号も設定することが承認された。2)通しページ番号の有無については保留とした。3) J-Stage Dataの利用を見据えて、J-Stageとの意見交換会を実施することが承認された。4)論文以外の記事(新刊紹介、学会記事、公募や学会開催案内等のニュース)をJ-Stageで公開しないことを決定した。5)小宮山印刷工業から当日提示された見積書について紹介がなされた。1号分(10論文)で231,000円。詳細について小宮山印刷工業との面談を今後行うこと、小宮山印刷工業以外の業者からも見積書を取り寄せること、学会の業務委託に関する情報も共有しつつ検討を進めることについて委員長から説明があり、承認された。6)現在のGKK投稿規定、編集規則には、岩石名・鉱物名の平仮名・カタカナ書きに決まりはなく、現状では著者の選択に委ねられている。今後、編集規定に盛り込む上で、日本鉱物科学会の鉱物科学に関する用語検討委員会「直方晶系(斜方晶系)」への対応(平成28年10月28日付)が鉱物科学会としての見解に相当するのかどうか理事会に確認することとなった。7)コンテンツ充実のための方策として、日本語の1-2頁の依頼原稿を新たに設ける。博士号を取得した学生や学振特別研究員の研究成果、学会ポスター賞の紹介記事、若手の奨励賞の紹介記事、大学院生の研究室紹介や学会への参加報告などを想定。8)岩石鉱物科学の依頼原稿の各カテゴリー毎に原稿を集める担当を編集委員全員が数名ずつで分担することとなった。

(2)第3回編集委員会(2022年3月23日開催)

1)通しページ番号を付けない案が承認された。2)月9日に行った小宮山印刷工業との協議について説明し、3月9日に入手した小宮山印刷工業の見積もり書に基づき、年間10編発行した場合の経費を編集業務委託経費約25万円、電子ジャーナル作成およびJ-Stage搭載経費約50万円と見積もった。今後コンテンツ充実を考慮し、年間約80-100万円の予算が必要となることを確認した。委託先として小宮山印刷工業との契約締結に向けた協議を進める提案が承認された。3)依頼原稿の担当者をカテゴリー毎に3-4名ずつ割り振ることを改めて確認し、近日中に各委員に担当するカテゴリーの希望を照会することとした。

報告の後、JSTで運用が始まった日本語プレプリントサーバー(「Jxiv(ジェイカイブ)」: 査読前論文の公開システムで個別のdoiが付く)の対応について質問があり、今後前向きに対応する方向で編集委員会で検討するとの説明があった。これについては、JMPSでも説明会に出席するなど対応を始めているが、対応の進め方については今後検討したいとのことであった。Jxivは国外で既に運用されているシステムとは、査読コメントを得た後の修正版の扱いなどの部分で少し異なる形での運用となっているので注意が必要との意見があった。

4. 2021年12月13日第1回臨時理事会報告 和文誌編集報告

1. 2021年度第1回和文誌GKK編集委員会報告(2021年12月10日開催)

(1)編集状況報告(2021年12月9日現在)

50巻1号-4号(4号分) 掲載内容	件数	頁
原著論文	2件	14p
短報	0件	0p
総説	0件	0p
受賞記念研究紹介	6件	48p
資料・解説	1件	10p
鉱物の分析及び実験・解析のコツと勘どころ	1件	9p
日本新産鉱物情報	1件	2p
訂正	0件	0p
新刊紹介	1件	1p
投稿規定		6P
学会記事(理事会・総会議事録)		61P
その他の記事(年会案内記事)		11P
追悼文		0P
総目次		2P
広告	0件	0P
白頁		2P
4号合計	合計	166p 41.5p/号

I. 編集状況報告(2021年12月9日現在)

(1)発行状況:

50巻4号(2021年11月30日付発行 54p):
原著論文1編(6p)、学会記事(43p)、投稿規定(3p)、総目次(2p)
電子ジャーナル2021年12月20日公開予定
冊子発送2021年12月20日発送済

(2)現在受理論文:0編

(3)現在査読中論文:0編

II. 2022年中発行 51巻電子ジャーナル発行予定

51巻1号(2022年3月中 電子ジャーナル発行予定)
2020年度受賞者記念研究紹介 掲載予定
学会記事

51巻2号(2022年5月中 電子ジャーナル発行予定)
2020年度受賞者記念研究紹介 掲載予定
2022年年会・総会のお知らせ
学会記事

51巻3号(2022年8月中 電子ジャーナル発行予定)

51巻4号(2022年11月中 電子ジャーナル発行予定)

(2)副編集委員長指名報告

興野純委員を本人の承諾を得て2021年度定時総会終了時までの任期で、副編集委員長に指名しましたことを報告します。

審議事項

(1)現在の小宮山印刷工業との請負契約を2022年12月までに変更することについて

現在の小宮山印刷工業とのGKK契約はJMPSと同じく2022年3月までです。小宮山印刷工業への契約異議申し立て締切の2021年12月中に契約変更を申し出ない限り、1年間自動更新になります。一方学会事務局の宮地さんが2023年3月まで勤務可能となり、GKK編集業務は2022年12月まで現状のまま継続が可能となりました。それまでは編集業務委託が不要となったので、現在の小宮山印刷工業とのGKK請負契約2022年4月～2023年3月を、2022年4月～2022年12月までの契約に変更して継続契約をすることを提案いたします。

(2)2023年1月以降のGKK印刷請負業務および編集業務委託先の選定方法とスケジュールについて

2023年1月以降は電子ジャーナル作成業務(請負契約)と合わせて編集業務の委託(準委任契約)を開始しなければなりませんので、契約手続きや予算案計上に必要な期間を考慮すると、2022年4月頃までに決定する必要があります。今後、現在の小宮山印刷工業も含め他数社見積もりを取り、選定作業を検討していくことをご承りいただきたい。

現在の小宮山印刷工業のGKKの電子ジャーナル作成費と編集業務委託費の見積書を現在依頼中で、編集委員会に間に合えば資料として提示します。JMPSでは数社から見積から遅くとも4月まで委託先を選定し、5月の第2回理事会の予算案に2023年1月からの委託費などを計上することです。そこで、JMPSが選定した委託先からもGKK編集費用の見積もりを取り、小宮山印刷工業の見積もりと比較して委託先を決めることも提案いたします。なお、これまでJMPSとGKKの印刷会社が異なっていた時期もあり、両雑誌で編集担当委託先が同じ会社である必要はないとことです。

(3)12月13日の臨時理事会への議案の提出について

12月13日開催予定の臨時理事会で、GKK編集状況と本日のGKK編集委員会について報告するとともに、下記の議案を提出することを提案いたします。なお、第6号議案(1)~(3)は9月16日のGKK編集委員会で承認された事項です。詳細は議事録をご覧ください(添付)。同じく(4)と(5)は本日のGKK編集委員会での承認が前提となります。

第6号議案 GKK電子ジャーナル発行による変更について(大藤委員・理事(依頼中) 説明:高澤和文誌編集幹事)

- (1)ページチャージ料金据え置き:原著論文が少ないことから据え置きで1ページ2500円のままとする。
- (2)J-Stage公開論文の3年間非会員非公開解除の件:早期(2022年1月から)に認証制限を解除して無認証へ移行する。
- (3)無料別刷の廃止の件:電子ジャーナル化に伴って廃止とする。
- (4)2022年4月からのGKK電子ジャーナル作成業務委託契約の件
- (5)2023年1月からのGKK印刷業務および編集業務委託業者選定などの件

(4) GKKの改革に向けたワーキンググループの設置について

若手の編集委員と会員を中心とするGKKワーキンググループを発足し、GKKの見直しに向けた提案の検討を開始しました。現在の検討内容について興野GKK副編集委員長から説明していただきます。

5. 2021年9月17日第1回定例理事会報告 和文誌編集報告(長瀬和文誌幹事・理事 代理 高澤栄一副編集委員長)

岩石鉱物科学 50 巻 2 号,3 号(2 号分)掲載内容

2号分	件数	頁
原著論文	1件	8P
短報	0件	0P
総説	0件	0P
資料・解説	6件	47P
訂正	0件	0P
新刊紹介	1件	1P
ニュース(他学会案内,教官公募等)		0P
投稿規定		0P
学会記事(理事会・総会議事録)		25P
その他の記事		0P
追悼文		0P
総目次		0P
広告 1件		0P
白頁		1P
5/29以降2号合計	合計	82P 41p/号
前回まで4号発行	合計	146p 36.5p/号

1. 編集状況報告(2021年9月15日現在報告)

(1) 発行状況:

50巻2号(5月31日発行号):受賞紹介3編,年会案内など掲載,電子ジャーナル
2021年5月26日公開中,冊子発送2021年5月31日発送済
50巻3号(7月31日発行号):原著1編,資料他2編,電子ジャーナル
2021年7月13日公開,冊子発送2021年8月12日発送済

(2) 現在受理論文:1編

(3) 現在査読中論文:0編

2. その他

2021年9月16日開催のGKK編集委員会での会議内容につきましては
当日理事会で報告させていただきます。

2021年9月16日開催GKK編集委員会報告:

- 1)報告事項:副編集長より、GKKの掲載状況および編集状況、長瀬敏郎和文誌編集幹事・編集委員長の辞任、荒川洋二編集委員の退任について報告がなされた。
- 2)審議事項承認結果:編集委員会から会長に次期和文誌編集幹事として高澤副委員長を推薦する、ページチャージの検討:原著論文が少ないことから据え置きで1ページ2500円のままとする、J-Stage掲載論文の3年間非会員に非公開の件:早期に認証制限をかけない無認証へ移行する(次回理事会へ提案)、無料別刷の廃止:電子ジャーナル化に伴って実施する(次回理事会へ提案)、電子ジャーナル化に伴う問題点洗い出しについて継続審議(投稿規定改正など)、GKK編集委員会体制、和文誌の方向性等の見直しの継続検討、来年の国際鉱物年に向けて企画を検討。

【2】 英文誌(JMPS)編集報告(吉朝英文誌編集幹事・理事)

1. 2022年8月24日第3回定例理事会報告 英文誌編集報告

2022年5月29日第2回定例理事会報告以降の状況を以下の通り報告いたします。

1. JMPS現状報告

1) 投稿数状況:[参考:表1]

[参考:表1] WEBシステム利用後の投稿数(2022年8月20日現在)

Month	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
Jan	0	3	2	2	5	2	4	7	5	5	1	1
Feb	0	2	2	1	2	2	0	2	1	0	0	1
Mar	0	2	0	4	2	2	7	3	1	1	5	5
Apr	0	2	3	1	5	3	12	5	5	3	1	1
May	0	4	0	3	5	4	3	4	3	1	0	2
Jun	0	12	6	9	4	3	5	2	3	2	0	3
Jul	0	3	3	8	9	12	9	6	6	5	2	3
Aug	0	5	2	1	7	1	2	2	12	3	5	2
Sep	3	2	1	4	5	2	2	4	2	3	4	0
Oct	16	14	11	16	9	3	4	3	10	2	0	0
Nov	2	5	4	4	5	8	9	18	5	8	2	0
Dec	3	3	2	6	5	2	4	2	5	2	6	0
	24	57	36	59	63	44	61	58	58	35	26	18

2) 編集状況:受理論文4編(印刷中1編,準備中3編),査読中:5編,返却中:4編

3) 発行状況：117巻1号電子ジャーナル 原著論文3編，Letter 4編，Technical Note 1編 Editorial Message 1件 計71頁

論文種類	件	Vol 117	件	Vol 116	件	Vol 115	件	Vol 114	件	Vol 113	件	Vol 112	件	Vol 111
Reviews	0	0p	0	0p	5	60 p		0 p		7	75 p	1	3p	
Articles	3	37p	23	265p	33	406 p	23	242p	24	255 p	21	221p	30	396 p
Letters	4	23p	8	43p	2	12p	9	48p	9	49 p	12	60p	4	22p
Technical	1	10p	1	5p	1	5 p	1	11p	1	11 p				
Editorial	1	1p		1p		1 p		2p				1 p		1 p
Errata						1 p								1p
規程				3p				6p		4 p		6 p		4 p
Index				4p		4 p		4p		5 p		4 p		5 p
Contents				4p		5 p		4p		5 p		4 p		6 p
白頁				2p		3 p		1p		3 p		1 p		2 p
合計頁	9件	71 p		327 p		500 p		318 p		332 p		372 p		440 p
1号平均頁				54.5p		83.3 p		53 p		55.3 p		62 p		73.3p

117巻1号(2022年)2022年5月21日以降の電子ジャーナル公開状況

No	公開日	論文種類	タイトル	著者名
001	2022/05/25 Released	Editorial Message		
006	2022/07/30 Released	Original Article	Formation of corundum in direct contact with quartz and biotite in clockwise P-T trajectory from the Sor Rondane Mountains, East Antarctica	----Tomokazu HOKADA, Tatsuro ADACHI, Yasuhiro OSANAI, Nobuhiko NAKANO, Sotaro BABA, Tsuyoshi
007	2022/08/09 Released	TECHNICAL NOTE	Determination of the laser-induced damage threshold for graphite and coal with deep-UV micro-Raman spectroscopy	----Yoshihiro NAKAMURA, Koji U. TAKAHASHI, Jun HOSOI, Hidetoshi HARA
008	2022/08/20 Released	ORIGINAL ARTICLE	Association of hydrothermal plagioclase alteration with micropores in a granite: Petrographic indicators to evaluate the extent of hydrothermal alteration	----Takashi YUGUCHI, Yuya IZUMINO, Eiji SASAO

4) 2021 JMPS Impact Factor: 1.041

(2020 0.72, 2019 0.764, 2018 1.472, 2017 1.030, 2016 0.409, 2015 0.648, 2014 0.742, 2013 0.656, 2012 0.589)

5) 特集号 “Recent Advances in Mineralogy, Petrology, Geochemistry and Geochronology in East Antarctica” Guest Editors: Tomokazu Hokada (National Institute of Polar Research, Japan), M. Satish-Kumar (Niigata Univ., Japan) and Tetsuo Kawakami (Kyoto Univ., Japan)が提案され、臨時JMPS編集委員会で承認された。

2. 2022年5月21日第2回定例理事会報告 英文誌編集報告

永井JMPS副編集委員長より、JMPSの編集状況について以下の報告がなされた。

(1) 報告事項

1) JMPS状況報告 (2022年5月19日現在)・投稿数状況報告：2022年上半年投稿数9編，前年の2021年 投稿数26編,その前の2020年投稿数35編に続きコロナ禍で投稿数が大幅減少.JMPSへの投稿はコロナ禍で激減しており，引き続き投稿をお願いしたい。また，116巻6号は，発行年は2021年であるが，コロナ下で投稿数が少ない中，一定の論文数を揃えて年間6号を刊行するという運営細則第22条の規定上，一部には2022年に受理した論文も含まれている。この件は，編集委員会からのアナウンスとして今後J-Stageなどに公開する予定。117巻からは電子ジャーナル版に移行し，現在，2本の論文が公開されている。電子版では論文のヘッダーも一新され，各論文には3桁の公開順の番号が割り振られる。国際鉱物年のロゴについては，今後公開する論文に掲載する予定である。現在，投稿規定には原稿の種類によってページ数の制限が示されているが，Original ArticleとReviewについては，長さ制限を廃止する予定。Letterについては，そのまま制限を維持する。

(2) JMPS編集委員会報告(2022年5月21日10:30-11:30)：1) 報告事項：JSTが運用している日本語プレプリントサーバーJxiv(ジェイカイブ)とデータリポジトリJ-Stage Dataの活用については前向きに継続審議の予定。J-Stage公開済み論文を大学など各種リポジトリで公開することの是非についても今後検討の予定。編集委員会のメンバーの人選についても検討を進める。

2) 審議事項： Satish-Kumar JMPS学生論文賞選考委員会委員長より，2021年度JMPS学生論文賞審査結果については以下の通り報告がなされ，後記の本理事会で審議される。

II. JMPS編集委員会審議事項

1. 2021JMPS学生論文賞結果報告と審議 JMPS学生論文賞選考委員会委員長 M.Satish-Kumar 選考委員長

本年度のJMPS学生論文賞授賞候補論文につきまして当委員会で検討した結果，下記の2論文を推薦することになりましたので，選考理由とともにご報告致します。

【第13回】対象論文：A new occurrence of okhotskite in the Kurosegawa belt, Kyushu, Japan: the okhotskite + Mn-lawsonite assemblage as a potential high-pressure indicator. JMPS v.115, No.6 431-439 2021

著者：Wataru YABUTA and Takao HIRAJIMA

学生会員筆頭著者：数田 渉 (投稿時：京大・M2)

推薦理由：本研究は，黒瀬川帯においてはじめてオホーツク石を発見・記載したものである。シュライネマーカースの束を用いた安定相解析にもとづいて，この鉱物がローソン石と共存し高圧で生成したことを明らかにした。さらに，オホーツク石が酸化的で水の含有量が高い鉱物であることに着目し，沈み込み帯における水と酸素の輸送媒体として機能し，深部の酸化に重要な役割を果たした可能性を示唆している点は高く評価できる。

【第14回】対象論文：Modulated structure of hemimorphite associated with pressure-induced phase transition. JMPS v.116, No. 5, 251-262, 2021

著者：Keitaro OKAMOTO, Takahiro KURIBAYASHI, and Toshiro NAGASE

学生会員筆頭著者：岡本 啓太郎 (投稿時：東北大・D3)

推薦理由：本研究は，Hemimorphite(異極鉱)の高圧単結晶X線回折実験を行い，2.46~3.01GPaで観察される圧力誘起相転移に伴いあるブラッグ反射にサテライト反射のペアが出現することを見出し，相転移のメカニズムとサテライト反射の示す変調構造について，反位相境界のサイズなど詳細な結晶学的議論がなされている。高圧下で測定したデータに対してこのような精密な構造解析を応用することの困難さを容易に想像することができ，得られた成果は高く評価できる。

以上の報告の後，2件の質疑があった。電子ジャーナルとして発刊された論文の論文番号について，論文の通し番号とJ-Stage登録の際に付与される番号(Article ID)が異なっており，分かりにくいとの意見があり，この件について次のように説明があった。JMPS論文ヘッダーにつけている通し番号は，電子ジャーナル公開順番の番号である。また，Article ID(論文番号)はJMPSでは投稿受付日を論文番号としており，doiの末尾となっており，J-Stageから付与されたものではない。更に電子ジャーナル化になり，各論文には冊子体の様な1巻を通しての「通しページ」を付けないことにした。以上からJ-Stage搭載システムでは，JMPS電子ジャーナルの様に「通しページ」がない場合は，論文番号を入力することがJ-Stageシステムの仕様になっているので，変更はできない。以上から論文1頁目には3桁の年間公開順の番号を表示し，doiなどにはJMPSで付与した論文番号を表示していることをご理解いただきたい。また，現在の公表論文については，保護付きPDFをやめる対応となっていたはずだが，現在も一部機能が保護されている件について質問があり，次のように

説明があった。当時の要望はコピーを可能にすることであったので、それ以降(112巻3号から)現在まで、JMPSではコピーは可能にしたが、それ以前の過去の公開分については、コピー解除作業の費用の問題があり解除しないことになった。それ以外の制限はそのまま残されており、この件に対する対応は編集員会で検討することになった。

3. 2022年3月31日(月)2021年度第2回臨時理事会報告

1. JMPS現状報告

1)編集状況：印刷中1編，受理論文1編，査読中：7編，返却中：3編

2)発行状況：116巻5号(10月号)2022年2月7日発送 原著論文 4編,TECHNICAL NOTE 1編 合計42頁

116巻6号(12月号)2022年3月24日発送 原著論文 2編,Letter 2編,Index,Contents 合計52頁

[参考:表2] 116巻1号(2月)～116巻6号(12月)(2022年5月19日現在)と過去の掲載ページ数

論文種類	件	Vol 116	件	Vol 115	件	Vol 114	件	Vol 113	件	Vol 112	件	Vol 111
Reviews	0	0p	5	60 p		0 p			7	75 p	1	3p
Articles	23	265p	33	406 p	23	242p	24	255 p	21	221p	30	396 p
Letters	8	43p	2	12p	9	48p	9	49 p	12	60p	4	22p
Technical	1	5p	1	5 p	1	11p	1	11 p				
Editorial		1p		1 p		2p				1 p		1 p
Errata				1 p								1p
規程		3p		3 p		6p		4 p		6 p		4 p
Index		4p		4 p		4p		5 p		4 p		5 p
Contents		4p		5 p		4p		5 p		4 p		6 p
白頁		2p		3 p		1p		3 p		1 p		2 p
合計頁		327 p		500 p		318 p		332 p		372 p		440 p
1号平均頁		54.5p		83.3 p		53 p		55.3 p		62 p		73.3p

3)今後の予定 電子ジャーナル発行:117巻1号Letter2編(印刷中,準備中)発行日未定

2. 2023年1月からの印刷(請負契約)と編集業務委託(準委託)契約について

小宮山印刷工業からの令和4年3月8日付で提出された詳細な電子ジャーナル化見積書とJMPS編集委託費見積書について、3月17日12時から委員長，副委員長，大和田WG委員長，事務局とで内容を検討した。その他の候補として、昨年国際文献社印刷とZOOM打ち合わせをして見積書が提出されたが、その後詳細な見積書依頼などはしていない。JMPSでは、本件は、編集幹事案件として、編集委員会にはかけておりませんが、JMPSでは、見積もりとインタビューを行った上記2社いずれでも、現在の編集体制を大きく変更することなく維持できるであろうという判断です。しかしながら、金額的な面では小宮山印刷工業が若干ではありますが良い条件であり、これまでの繋がりもあることから、来年度に向けて、今年度準備していく作業等でスムーズであろうという判断をしておりますが、最終決定、契約については、編集委員会案件ではないと考えておりますので、理事会でご判断いただければと思います。なお、小宮山印刷工業の実績が紹介された。現在下記等の英文の学会誌を出版しており、Editorial Managerシステム(英語版)や Scholar One Manuscripts(英語版)を利用した編集業務を実施している。自社運営の投稿サイトも開発中で現在テスト運営中とのこと。海外からの投稿に対する英語メールでの対応も可能。

4. 2021年12月3日(金)第1回臨時理事会報告(吉朝英文誌幹事・理事：代理 永井副委員長・理事)

永井副委員長より、JMPSの編集状況および印刷業務委託・編集業務委託での検討事項について以下の報告がなされた。

(1)JMPS現状報告：1)2021年中の投稿数：20編，2)編集状況：早期公開中1編，受理論文2編，査読中：4編,返却中：4編，3)発行状況：116巻4号(8月号)2021年10月19日発送,原著論文5編 合計52頁，

4)今後の予定：116巻5号(10月号)：発行日未定，原著論文2編(印刷準備中)，Technical Note1編(早期公開中)。発行にはもう2，3編論文必要。116巻6号(12月号)：発行日，掲載論文未定。

(2)2022年4月からの印刷業務委託(請負)契約：2022年3月で契約満了となる小宮山印刷工業には2022年4月から12月まで請負契約を予定

(3)2023年1月からの印刷(請負契約)と編集業務委託(準委託)契約を検討中。数社から見積を取り、4月までに委託先を選定、5月の第2回定例理事会の予算案に2023年1月からの委託費などを計上する予定。

5. 2021年9月17日第1回理事会報告 英文誌編集報告

吉朝英文誌幹事より、JMPSの編集状況および2021年9月16日の編集委員会での検討事項について以下の報告がなされた。

1)JMPS状況報告：投稿論文不足により、8月号掲載論文がようやく決定、現在印刷中。現在投稿論文11編(2021JpGU Letter 4 編含む)。

2)編集委員会報告：2021年7月27日第3回臨時理事会での内容確認(学会費用での英文校閲中止(総会終了後の投稿から該当)、ページチャージ費用改正：4,000円/頁 会員6,000円，非会員8,000円(総会終了後の投稿から該当)、ページチャージ30%割引の廃止(総会終了後の請求書から該当、但し発行済みクーポンは有効期限(2年)内利用可、シニア会員ページチャージ無料は継続審議)、ページチャージにつく無料別刷50部は廃止(実施は電子ジャーナル化後)) 審議事項：a)電子ジャーナル作成は現在の印刷所に1年間契約延長を依頼予定(見積もり取得済み、電子ジャーナルPDF本文カラー化の加算額無し)、b)JMPS投稿規定等の変更文案を作成中で、編集委員会で検討予定、c)特集号の計画を策定中、d)印刷経費削減のためのテンプレート化等の可能性について調査中、e)英文校閲は担当エディターの判断で業者を推薦して受理の判断として良いことを確認。3)編集委員長から、今年は昨年来のコロナの影響もあるのか10月号、12月号掲載論文不足の深刻な状況との説明があり、積極的な投稿のお願いと特集号企画の依頼がなされた。

(2) 総会、講演会、研究部会、その他学術に関する集会及び行事の開催事業

[1]行事報告・年会報告(磯部行事幹事)

1. 一般社団法人日本鉱物科学会 2021年オンライン年会・総会報告

日程：2021年9月16日(木)～9月18日(土) オンライン開催)

2021年9月16日(木)より9月18日(土)まで開催の一般社団法人日本鉱物科学会2021年会・総会は、会場を予定していた広島県に新型コロナウイルス感染拡大防止のための「緊急事態宣言」が発令される事態に至ったため、広島大学における現地開催を中止し、完全オンラインにて口頭講演、ポスター講演、定時総会、定例理事会、学会賞等受賞講演、クロージングセレモニー、一般普及講演が行われた。

2021年オンライン年会でのセッションは、スペシャルセッション(4件)、レギュラーセッション8件(R1:宝石学会(日本)との共催、R7: 岩石・鉱物・鉱床一般は資源地質学会と共催)であった。年会での発表講演総数は176件(口頭118件、招待3件、ポスター55件)であった。年会参加者総数は266名(一般会員158名+学生会員59名+非会員一般3名+非会員学生35名、招待講演者3名、受賞者8名)であった。また、広島県への緊急事態宣言が延長されることになり、完全オンライン開催でも出来るだけ魅力的な年会になるよう、LOC及び行事委員でアイデアを出し合い、次のイベントを追加した。1)会員交流の場「oVice会場」9月15日(水) 18:30～20:00 アイスブレイカー・

オンライン懇親会の開催 2)「民間企業と学生会員の交流会」のオンライン開催 3)ポスターセッションでのZoomブレイクアウトルームの設定 4)9月19日(日)13:00~15:00 日本鉱物科学会・日本惑星科学会 合同開催 一般普及講演「はやぶさ2:小惑星リュウグウ探査6年間の旅,そして地上サンプル分析と新たな旅へ」共催:広島大学「プレート収束域の物質科学研究拠点」賛助:マツダ財団 一般普及講演会のZoom配信で開催した。このオンライン普及講演では、一般の多くの方々から参加申し込みがあり約400名のオンライン参加者となった。また、2020年度一般社団法人定時総会が会場を広島大学にして、オンライン出席を中心に行われ、出席社員数190名[本人出席120人(会場3人+ZOOM117人)]+書面70人(代理人行使52人+書面権行使18人)があり、社員数842名の約23%の出席となり、無事決算等の承認が行われ、続いて各賞の授賞式が執り行われた。展示はオンライン展示として6社にご参加いただいた。なお、LOCのご尽力で、東広島市学術振興等助成金から80,000円の補助金を受けることができた。

2. 2021年9月17日第1回定例理事会報告 行事・年会報告

2022年年会は以下のとおりで確定。

日程:9月17~19日の学術講演会、20日の巡検(糸魚川方面)

場所:新潟大学 五十嵐キャンパス 総合教育研究棟

現地運営委員:委員長 小西博巳(新潟大学)、高澤栄一、M. Satish-Kumar、高橋俊郎(以上、新潟大学)、小河原孝彦、宮島宏(以上、フォッサマグナミュージアム)

3. 2022年3月31日第2回臨時理事会報告 行事・年会報告

機部行事幹事より、行事活動について以下の通り報告がなされた。

今年の新潟大学での年会に際し、国際鉱物年に関連して、記念ロゴの表示等を検討している。また、2022年3月30日にZOOM会議を開催し、前半1時間は今年での発表講演投稿システム等の利用について行事委員会とLOC代表がアトラス社から説明を受け、後半1時間は行事委員会を開催した。それらを元に、またLOCの会場状況を踏まえて、年会実施形態でのハイブリッド開催、現地開催、完全オンライン開催に対する対応を更に行事委員会で検討中である。ご意見があれば、寄せてほしい。

4. 2022年5月21日第2回定例理事会報告 行事・年会報告

1) 2022年年会は、会場の都合上、下記のように場所を変更して実施する。年会・総会の実施形態は、現地開催を基本としつつ、オンラインでの参加も可能とするハイブリッド形式での開催を予定。但し、今後の対応については、諸状況の推移を注視し、安全確保を最優先として判断する。決定事項の最新情報は、メール配信及び年会WEBサイトで周知の予定。

<日本鉱物科学会 2022年年会・総会の概要> 概要は会告・年会HPでも告知予定。

- ・日程:2022年9月17日(土)~19日(月)
- ・会場:新潟ユニゾンプラザ(予定) 〒950-0994 新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号
- ・形態:現地開催を基本とし、オンラインでの参加も可能とするハイブリッド形式の予定。
- ・学術講演:9月17日(土)午前、18日(日)午前・午後、19日(月)午前・午後
- ・総会・授賞式:9月17日(土)13:00~16:30
- ・スペシャルセッション:「火成作用の物質科学」,「岩石 水相互作用」を開催
- ・世界鉱物年2022記念一般普及講演会(予定):9月18日(日)14:00~16:00 新潟市万代市民会館
「国石や新潟県の石になる宝ヒスイとは何だろ?~地球からの贈り物と世界最古のヒスイ文化~」
講演者:小河原孝彦(フォッサマグナミュージアム)
- ・懇親会(予定):9月18日(日)夜(詳細は後日告知)
- ・クロージングセレモニー:9月19日(月)午後
- ・参加登録費 昨年度当初予定と同額
事前料金:一般会員 7,500円 学生会員 3,500円 非会員(一般) 12,000円 非会員(学生) 6,000円
当日料金:一般会員 8,500円 学生会員 4,000円 非会員(一般) 13,000円 非会員(学生) 6,500円
- ・講演申込み期間:2022年6月22日(水)10:00~7月13日(水)20:00まで 年会WEBサイトから申込
- ・巡検:9月20日(火) 蓮華变成岩類と糸魚川の希産鉱物(予定)
新潟県糸魚川市内の青海川や湯ノ谷の蓮華变成岩類(結晶片岩、角閃岩、エクロジャイト等)、
青海川ヒスイ峡のヒスイ輝石岩、山之坊のコスモクローア輝石露頭を見学予定。
・申込先 <https://logofom.jp/form/uqfT/98805> ・申込期間:8月19日(金)まで ・費用:2000円

2) 2023年年会は、大阪公立大学を会場として開催予定。篠田LOC委員長、瀬戸雄介会員を中心に準備を進めている

5. 2022年8月24日第3回定例理事会報告 行事・年会報告

2022年5月21日第2回定例理事会では、学術講演会および総会の会場を新潟ユニゾンプラザ(新潟市中央区上所2丁目2番2号)とご報告していましたが、コロナ禍の状況の変化に伴い、両会場を新潟大学五十嵐キャンパス(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)に変更致しました。その他の準備状況につきましても報告させていただきます。また、普及講演会・巡検については、会場変更等はなく、さらに糸魚川市との共催という形で実施させて頂くことになりました。

【2】広報報告(大藤広報幹事・理事)

1. 2021年9月17日第1回定例理事会報告 広報報告

1) 会員へのML送信

事務局にご担当いただき、2020年は総会以降に3件、2021年は11件配信した。内容は、学会事務連絡、学術雑誌の刊行案内、公募情報、関連学会案内(協賛イベント情報)、年会のお知らせなど。7/28のメールニュースではGKK、JMPSの完全電子化についての理事会報告を周知した。その他、小惑星探査機「はやぶさ2」の地球帰還を受けての声明文やコメント動画(土山会員)のリンクも掲載した。

2) JpGU2021オンラインブース展示

2021連合大会において、Confitを利用したオンラインブース展示を行った。学会の活動内容(活動概要、学会誌、年会、入会案内など)の紹介や鉱物の性質(劈開、モース硬度、蛍光)について紹介する動画を愛媛大学の会員に協力していただき作成し、昨年度作成した動画と併せて公開した。また、ZOOMを利用した鉱物に関するライブ実験を2回行い、好評を得た。公式SNS(Twitter, Facebook)も活用した宣伝の効果もあり、223名の来場者と延べ328回の閲覧があった(大会展示担当の集計)。そのほか、クイズラリーにも参加し、その賞品としてヒスイ、スピネル砂を提供した。

3) 取材対応

株式会社えにさむより、学会の取り組みや活動内容、社会との関わりなどに関する取材依頼があり、宮脇会長と広報幹事の大藤で対応した。取材内容は、同社のホームページの「古イ未来」というコーナーで紹介される予定。株式会社ジャパンジャーナルより、日本の

国石として選定されたヒスイに関して、取材申し込みがあり、宮脇会長を中心に対応にあたった。ヒスイの産地や特徴、利用の歴史や国石として選ばれた背景などについて、「HIGHLIGHTING Japan (2021年10月号)」の特集企画「日本における石の文化」の中で紹介される予定。

4) 広報委員会(オンライン)の開催

8/20にZOOMによる広報委員会を行い、今後の広報活動の在り方、方向性について議論を行った。公式SNS(Twitter, Facebook)とYoutube(動画コンテンツ)を活用した広報展開を強化してゆく方針で一致した。公式Youtubeチャンネル担当として、広報委員をもう1名追加した。SNSによる会員、非会員へ向けた情報発信を増やすため、会員による新しい発見や重要な研究成果など(プレスリリース記事へのリンクなども)を学会公式SNSを通じて発信する試みを近く開始する予定。

5) 「民間企業と学生会員の交流会」を企画

2021年年会(広島大・オンライン)の中の企画として、鉱物科学に関連のある分野で活躍されている民間企業と各大学の学生会員との懇談を目的としたオンライン交流会(9月17日(金)17:30~19:00)を企画し、7社よりエントリーいただいた。また、民間企業のインターンシップやリクルート情報などを学会HP上に掲載してゆくことも検討している。

6) 広報委員会の専用メールアドレスを新設

学会の広報窓口として専用メールアドレスを新設(各広報委員へ自動メール転送)したので、今後は窓口として積極的にご活用いただきたい。kouhou.jams@gmail.com

7) 広報委員会の対応体制

大藤弘明(東北大) 統括・諸対応、梶谷浩(学習院大) ホームページ担当、斎藤恭(愛媛大) JpGUブース担当、石橋秀巳(静岡大) Twitter担当、浜田麻希(金沢大) Facebook担当、延寿里美(愛媛大) Youtube担当(新規追加)

2. 2021年12月13日第1回臨時理事会報告 広報報告

1) 会員による研究成果等のSNSを活用した情報発信窓口の設置

会員の研究成果等の情報を広く一般の方々へも周知・発信するため、学会公式SNS(Twitter/Facebook)を活用することを企画し、学会HPへの窓口を設けた。http://jams.la.coccan.jp/sns.html。これまで、下記を投稿。【透明ヒスイを合成】(愛媛大・入船会員の研究成果の紹介)、【日本の国石ヒスイ】(政府オンライン雑誌Highlighting Japanに掲載の記事の紹介)、【学会紹介記事】(株式会社えにさむHP、故未来(フルイミライ)への掲載紹介)

2) 地学オリンピック「地球にわくわく未来ガイド」への掲載広告を製作・提出

12月19日の地学オリンピック予選参加者へ配布する冊子「地球にわくわく未来ガイド」へ日本鉱物科学会を紹介する広告を製作(前回のもの修正)、提出した。

3) 国際鉱物年2022を普及・発信するための鉱物科学の副読本(小冊子)の企画

行事普及委員会および博物館委員会とも連携し、鉱物科学を普及するための小中学生向けの副読本(ブックレット)を企画している。

4) 今年の広島大での年会における企業と学生の交流会開催の結果報告

3. 2022年5月21日第2回定例理事会報告 広報報告

1) 会員へのML送信:事務局を通じ、2021年は総会以降に1件、2022年は現在までに5件配信。内容は、学会事務連絡、学術雑誌の刊行案内、公募情報、関連学会の催し等の案内などの他、JMPS、GKKの電子ジャーナル化とそれに伴う会費改正について周知を行った。

2) 学会HPおよび公式SNS(Facebook, twitter)を通じた広報活動:学会HPの更新は事務局を通じ、学会事務連絡、学術雑誌の刊行案内、公募情報、関連学会の催し等の案内などの周知を実施。公式SNSでもそれらの情報を発信、会員関係者から依頼のあった周知情報の発信も実施(会員によるプレスリリース2件、学会取材内容の掲載2件、催し・お知らせ3件他)(twitter:石橋委員、Facebook:浜田委員が担当)。また、公式SNSによる情報発信のための依頼窓口を学会HP上に設置した。

3) 学会公式Youtubeチャンネルの開設:Youtube担当延寿委員を中心に愛媛大の会員の協力を得て、鉱物・岩石の性質に関する紹介動画を作成、公式Youtubeチャンネル上で公開(現在8本の動画を公開中)。今後、シリーズ化し、動画コンテンツの拡充を図る予定。

4) 文部科学省の科学技術週間に参加:文科省からの参加要請を受け、2022年4月18~24日の科学技術週間に合わせたオンライン企画(公式Youtubeチャンネルの動画コンテンツへのリンクを張った特設サイトを作成、公開)を実施。

5) 取材対応記事の公開:株式会社「えにさむ」のホームページ内の故未来(フルイミライ)コーナーで当学会の活動内容を紹介いただいた(http://furuiimirai.anysome.co.jp/articles/jams/)。また、政府のオンライン雑誌Highlighting Japanにおいて、ヒスイの歴史や人々との関わり、国石として選定された経緯などを紹介いただいた(https://www.gov-online.go.jp/pdf/hlj/20211001/hlj_202110_1011_Jadeite_A_Representative_Stone_of_Japan.pdf)。

6) 2022年連合大会のオンラインブース展示:JpGUブース担当斎藤委員を中心に、オンラインコンテンツ(公式Youtubeチャンネルの動画)をメインとしたブース展示を行う予定。また、好例のクイズラリーにも申し込み、景品としてヒスイ輝石(2個)、スピネル結晶(14袋)を提供予定。

4. 2022年8月24日第3回定例理事会報告 広報報告

1) 会員へのML送信

事務局に担当いただき、2021年は総会以降に1件、2022年は現在までに14件配信いただいた。内容は、学会事務連絡、学術雑誌の刊行案内、公募情報、関連学会の催し等の案内など。

2) 学会HPおよび公式SNS, Youtubeを通じた広報活動

学会HPの更新は宮地さんにご担当いただき、学会事務連絡、学術雑誌の刊行案内、公募情報、関連学会の催し等の案内などの周知を行った。また、公式SNSにおいてもそれらの情報を発信した。今年新たに開設した学会公式Youtubeチャンネル上で一般・入門者向けの動画を公開している(現在8本の動画を公開中)。

3) 2022年連合大会のオンラインブース展示

JpGU2022において公式Youtubeチャンネルの動画をメインとしたオンラインブース展示を行った。JpGU事務局情報では、延べ閲覧数96件、ユーザー数53人と昨年度(延べ閲覧数328件、ユーザー数223人)と比較して大幅に減少した。今回はハイブリッド開催でオンライン展示も行われていたため、オンラインでの参加者・閲覧者が限定的だった可能性が高い。来年はオンラインでのブース展示やライブ実験などを行いたいと考えている。また、好例のクイズラリーにも申し込み、景品としてヒスイ輝石(2個)、スピネル結晶(14袋)を提供した。

4) 今後の学会ホームページの更新・運用に関する準備

これまで事務局の宮地さんに長年管理・運営していただいている学会ホームページを継続運用するための方法について検討を行った。広報委員をはじめ必要なユーザーが簡便・迅速に更新できるように、html形式からWordPress形式に刷新し、広報委員会を中心に管理・運営をする方向を考えている。学会等ホームページの作成に実績のある株式会社アクセライトと打合せを繰り返し、現行ホームページからの移行にかかる費用について見積もりを取得した。

【3】 渉外報告(永瀧渉外幹事・理事)

1. 2022年3月31日第2回臨時理事会報告 渉外報告

- 1) 2022年2月22日：日本郵政より「宝石切手」が発行された。日本宝石協会 宝石切手委員会より宮脇会長と白勢会員（写真採用者）に額装、写真提供者である6名の会員に切手シートが贈呈された。
- 2) 2022年2月24日：(宮脇会長からの依頼にもとづき) 内閣府共通意見登録システムを通じて「国際基礎科学年(IYMSSD2022)の協賛について」に一般社団法人日本鉱物科学会としての登録に対応した。

【4】Elements報告（森下Elements幹事）

1. 2022年3月31日第2回臨時理事会報告

森下Elements幹事より、Elements誌編集状況について以下の通り報告がなされた。

- 1) JPGUの案内原稿を準備中で、次号でのブリッジマナイトに関する原稿も中塚晃彦会員からの入構済み、次々号での小笠原諸島の海底火山「福徳岡ノ場」からの軽石に関する原稿も吉田健太会員に依頼済みである。
- 2) Elements誌加盟学会の会長会議では、次期のPrincipal Editor選出の議論がなされている。Elements誌本体の編集部にご参加いただける方は、至急、会長がElements幹事にご連絡いただきたい。こちらでも検討させていただく予定。
- 3) Elements誌で「三波川変成帯」の特集を検討したいとの意見が出ている。関係の先生方にお声がけしたい。

2. 2022年5月21日第2回定例理事会報告

森下Elements幹事より、Elementsの編集と刊行状況について下記の報告がなされた。

記事に関しては順調に出稿しているが、刊行については連絡がきておらず詳細な状況が不明である。三波川帯の特集号の提案については、検討を進める予定。Elements誌本体の編集委員の推薦については、辻森会員と検討を始める方向で調整中。報告後の質疑では、昨年度December 2021-Volume 17, Number 6号は発送済みであるが、今年度2023, Volume 18第1号以降はまだ未刊行で、当学会発送リストは指定期日まで提出しているが、発送案内も学会事務局に届いていないとの補足情報があった。

3. 2022年8月24日第3回臨時理事会報告

2022年7月28日にElementsに関係する緊急会議があり、発行の遅れやPrinciple Editor 交代になどの説明があった(宮脇会長出席)。詳細は議事録を待って報告する予定。The Elements Teamから発行遅れのメッセージがありましたのでご紹介します。

Dear Elements Participating Societies,

As you are likely aware there has been a delay in production of the 2022 issues of Elements Magazine. This has been the result of continued pandemic delays and a workflow/staffing problem at Elements over the past few months. We have worked to overcome the resultant setbacks and are back on track and moving forward with production. We expect to have the first issue of 2022 (v18n1, Halogens) out to society members by the end of August and will follow relatively quickly with v18n2 (Organic Biomarkers). We are also working to update the Elements website.

We thank you for your patience and support as we strive to maintain the high quality that you and your members have come to expect from Elements.

(3)研究の奨励及び業績の表彰（黒澤庶務幹事・理事）

【1】2021年度日本鉱物科学会賞表彰

第26回受賞者：森下 知晃 会員（金沢大学 理工研究域地球社会基盤学系）

業績題目：超苦鉄質 苦鉄質岩に着目した物質科学的アプローチによる海洋プレート及び島弧下マンツルの形成・進化プロセスの研究

【2】渡邊萬次郎賞表彰

第38回受賞者：山中 高光 名誉会員

【3】2021年度日本鉱物科学会論文賞表彰

第25回受賞論文

Title: Anatomy of Shaku-dake high-Mg diorite, southwest Japan: Lithofacies variations and growth process of high-Mg diorite stock, JMPS, 116, 83-95, 2021.

Author: Keisuke ESHIMA

受賞者：江島圭祐会員

第26回受賞論文

Title: Neutron diffraction study of hydrogen site occupancy in Fe_{0.95}Si_{0.05} at 14.7 GPa and 800 K, JMPS, 116, 309-313, 2021.

Authors: Yuichiro MORI, Hiroyuki KAGI, Sho KAKIZAWA, Kazuki KOMATSU, Chikara SHITO, Riko IIZUKA-OKU, Katsutoshi AOKI, Takanori HATTORI, Asami SANO-FURUKAWA, Ken-ichi FUNAKOSHI, Hirouki SAITOH

受賞者：森悠一郎会員、鍵 裕之会員、柿澤翔会員、小松一生会員、佐野亜沙美会員

【4】2021年度日本鉱物科学会研究奨励賞表彰

第31回受賞者：瀧藤佑衣会員（名古屋大学大学院環境学研究科）

研究対象：「ラマン分光学・赤外分光学に関する基礎的研究と地質学全般への適用」

第32回受賞者：秋澤紀克会員（東京大学大気海洋研究所）

研究対象：「上部マンツルでの熔融・熱水活動記録の解読」

【5】2021年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞表彰

第14回受賞者：阿依アヒマディ会員（Tokyo Gem Science社、GSTV宝石学研究所）

受賞題目：「先端分析手法を適用した宝石の鑑別技術開発とデータベース構築」

【6】2021年度JMPS学生論文賞受賞論文表彰

第13回受賞論文：A new occurrence of okhotskite in the Kurosegawa belt, Kyushu, Japan: the okhotskite + Mn-lawsonite assemblage as a potential high-pressure indicator. JMPS, 115-6, 431-439, 2020.

Authors: Wataru YABUTA and Takao HIRAJIMA

受賞者：藪田 渉（投稿時：京大・M2）

第14回受賞論文：Modulated structure of hemimorphite associated with pressure-induced phase transition. JMPS, 116-5, 251-262, 2021.

Authors: Keitaro OKAMOTO, Takahiro KURIBAYASHI, and Toshiro NAGASE

受賞者：岡本 啓太郎（投稿時：東北大・D3）

【7】2021年年会研究発表優秀表彰

第58回受賞者：吉田 一貴（東北大学大学院環境科学研究科）

S2-04：オマーンオフィオライト地殻 マントル遷移帯におけるアンチゴライト脈形成と流体流動

第59回受賞者：奥村 翔太（京都大学大学院理学研究科）

S1, S4-09：火道上昇履歴に応じた石基輝石晶相変化の実験的検証

第60回受賞者：鈴木 康太（京都大学大学院理学研究科）

R8P-01：東南極リュツォ・ホルム岩体ルンドボックスヘッタに産する ザクロ石 - 珪線石片麻岩中のザクロ石と大隅石の成長時期の差異

第61回受賞者：佐藤 貴啓（東北大学大学院環境科学研究科）

S2P-05：長石の熱発光減衰速度式と熱伝導モデルの連成モデル

（4）本会の目的を達成するために必要な事業

【1】庶務報告（黒澤庶務幹事・理事）

1) 2021年度幹事会，理事会開催，準備，調整，監査立ち合い

（日時調整，議題作成，議事録作成，総会招集通知資料作成，発送，総会議事録作成，理事会会場準備，ZOOM会議準備）

第1回定例理事会ZOOM開催：2021年 9月17日(金)17:00-18:30：筑波大学 自然系学系B棟417室

第1回臨時理事会ZOOM開催：2021年12月13日(月)13:00-14:40：国立科学博物館総合研究棟 4階 地学研究部長室

第2回臨時理事会ZOOM開催：2022年 3月31日(月)10:30-12:00：国立科学博物館総合研究棟 4階 地学研究部長室

第2回定例理事会ZOOM開催：2022年 5月21日(土)14:15-16:45：国立科学博物館総合研究棟 4階 地学研究部長室

第3回定例理事会ZOOM開催：2021年 8月24日(水)15:00-17:30：国立科学博物館総合研究棟 4階 地学研究部長室

一般社団法人日本鉱物科学会監査立ち合い：2021年 8月24日(水)10:30-12:00 於：日本鉱物科学会事務局

2020年度定時総会ZOOM開催：2021年9月17日(金) 9:00-10:10 於：広島大学東広島キャンパス理学部E棟

2021年度定時総会ZOOM開催：2022年9月17日(土)14:30-17:30 於：新潟大学五十嵐キャンパス総合教育研究棟E棟

2) 連合への各種対応

3) 後援，共催，協賛の承諾

4) 会員への連絡，はやぶさ声明文

5) 表彰に関する件：第13回2021年度日本学術振興会「育志賞」受賞候補者推薦 候補者推薦なし

6) 令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞，若手科学者賞および研究支援賞受賞候補者の-学会内-推薦なし

7) 一般社団法人定時社員総会「招集通知」の電磁的方法(メール等)採用への同意お願い

8) 一社)日本鉱物科学会2021年度定時総会(2022/09/17開催)の事前お知らせ

9) 理事会，総会の開催準備 召集，資料作成，議事録作成

10) 連合への対応，後援・共催・協賛対応，会員への連絡，事務局管理など。

11) 事務局管理：覚書作成，勤務管理，新型コロナウイルス感染拡大で宮城県緊急事態宣言による事務局在宅勤務への対応。

12) 法人役員交代による法人変更届資料作成，理事兼業申請，各幹事・委員会委嘱依頼，兼業申請

13) 学術会議に対する声明文対応

14) 2021年度 役員 各委員会委員報告

<理事(22名)>

会長(代表理事)：宮脇律郎，副会長(代表理事)：大和田正明

理事：安東淳一，阿部なつ江，井上 徹，池田 剛，磯部博志，大藤弘明，鍵 裕之，片山郁夫，川本竜彦，河上哲生，栗林貴弘，黒澤正紀，辻森 樹，土屋範芳，永井隆哉，永島真理子，伴 雅雄，三宅 亮，塚本尚義，吉朝 朗

監事：小暮敏博

<幹事会>

会長：宮脇律郎，副会長：大和田正明，庶務幹事：黒澤正紀(理事)，会員幹事：阿部なつ江(理事)，会計幹事：栗林貴弘(理事)，行事幹事：磯部博志，和文誌編集幹事：高澤栄一，英文誌編集幹事：吉朝 朗(理事)，渉外幹事：永島真理子(理事)，広報幹事：大藤弘明(理事)，Elements:森下知晃，特務幹事(細則等検討担当)：大和田正明(理事)，地球惑星科学連合2022年度学会選出プログラム委員：門馬綱一(正)・西原 遊(副)，地感連合連絡担当：阿部なつ江(理事)，三鉱連絡委員：黒澤正紀，磯部博志

<行事委員会>

委員長：磯部博志(行事幹事・理事)，副委員長：池田 剛

委員：越後拓也，岡本 敦，鍵 裕之，片山郁夫，瀬戸雄介，寺崎英紀，湯口貴史，小河原孝彦(LOC)

<岩石鉱物科学編集委員会>

委員長：高澤栄一(和文誌編集幹事)，副委員長：興野 純

委員：阿部なつ江，遠藤俊祐，大藤弘明，掛川 武，久保友明，栗谷 豪，栗林貴弘，小暮敏博，近藤 忠，下林典正，中村美千彦，永島真理子，野口高明，濱田麻希，林信太郎，伴 雅雄，坂野靖行，星出隆志，三宅 亮，宮原正明，門馬綱一，塚本尚義，吉朝 朗

<JMPS編集委員会>

委員長：吉朝 朗(英文誌編集幹事，理事)，副委員長：M. Satish-Kumar，永井隆哉，河上哲生，

委員：伴 雅雄，Kaushik Das，榎並正樹，福山蘭子，市山祐二，井上 徹，加藤文典，河野元治，木村純一，小木曾哲，栗林貴弘，興野 純，三河内岳，門馬綱一，中村美千彦，小畑正明，大谷栄治，奥寺浩樹，大和田正明，佐藤 努，佐脇貴幸，篠田圭司，下林典正，杉山和正，角替敏昭，宇都宮聡

Jung Ho Ahn, Richard J. Arculus, D. Chandrasekharan, Ming Chen, Moonsup Cho, Alexander Khanchuk, Anhuai Lu, Joseph R. Smyth

<渉外委員会>

委員長：永島真理子(渉外幹事・理事)

委員：栗谷 豪(火山)，辻森 樹(地質)，川添貴章(高圧)，森下知晃(岩石)，宇都宮聡(環境)

<広報委員会>

委員長：大藤弘明(広報幹事・理事)

委員：梶谷 浩(HP担当)，斉藤 哲(JpGUブース展示担当)，石橋秀巳(Twitter担当)，浜田麻希(Facebook担当)，延寿里美(YouTube担当)，黒澤正紀(庶務幹事)

<Elements 委員会>

委員長：森下知晃(Elements幹事)，副委員長：瀬戸 雄介

- 委員：宇都宮聡、奥村 聡、片山郁夫、興野 純、小松一生、新名良介、橋 省吾、寺崎英紀、中野伸彦、門馬綱一、横山 正（サイエンスボード）
- Society News Editor：森下知晃
- Executive Committee Member：宮脇律郎(会長)
- 学会役職指定委員：黒澤正紀(庶務)、高澤栄一(GKK)、吉朝 朗(JMPS)、磯部博志((行事)、永島真理子(渉外)、大藤弘明(広報)
- < 将来企画委員会 >
- 委員長：大和田正明(副会長)、副委員長：大藤弘明
- 委員：森下知晃、阿部なつ江、井上徹、鍵裕之、中村美千彦、河上哲生、中野伸彦、永島真理子
- 諮問に係る幹事：黒澤正紀(庶務)、栗林貴弘(会計)、高澤栄一(和文誌)、吉朝 朗(英文誌)
- オブザーバー：宮脇律郎(会長)
- < 細則等検討委員会 >
- 委員長：大和田正明（特務幹事細則等検討担当）
- 委員：角替敏昭、川本 竜彦、亀井淳志、黒澤正紀
- < 新鉱物・命名・分類委員会 >
- 委員長：門馬綱一
- 委員：上原誠一郎、小林祥一、清水正明、白勢洋平、浜根大輔、坂野靖行、豊 逢秋、松原 聡、宮脇律郎
- < 教育普及委員会 >
- 委員長：林信太郎、委員：貴治康夫、宮嶋 敏、川手新一、川本竜彦
- < 博物館委員会 >
- 委員長：坂野靖行、委員：宮脇律郎、森 康、小河原孝彦、三河内 岳、上原誠一郎
- < 防災教育担当委員 >
- 林信太郎
- < 日本鉱物科学会賞選考委員会 >
- 委員長：井上 徹、副委員長：辻森 樹
- 委員：山崎大輔、三河内 岳、野口高明、小松一生、佐藤 努、磯部博志、川本竜彦、吉朝 朗、宮脇律郎(会長)
- < 渡邊萬次郎賞選考委員会 >
- 委員長：伴 雅雄、副委員長：掛川 武
- 委員：(2期目継続委員4名)：伴 雅雄、高木哲一、吉朝 朗、川本竜彦
- (1期目委員4名委員長指名)：掛川 武、阿部利弥、安東淳一、斉藤 哲
- < 日本鉱物科学会論文賞選考委員会 >
- 委員長：糀谷 浩、副委員長：浜根大輔
- 委員：(2期目継続委員5名)：糀谷 浩、伴 雅雄、辻森 樹、石丸聡子、越後拓也
- (1期目委員5名委員長指名)：浜根大輔、池田 剛、興野 純、栗林貴弘、松影香子
- < 日本鉱物科学会研究奨励賞選考委員会 >
- 委員長：河上哲生、副委員長：栗谷 豪
- 委員：(2期目継続委員5名)：河上哲生、大場 司、井上 徹、三宅 亮、小松一生
- (1期目委員5名委員長指名)：栗谷 豪、福山繭子、阿部なつ江、岡本 敦、門馬綱一
- < 日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会 >
- 委員長：川野 潤、副委員長：興野 純
- 委員：(2期目継続委員5名)：池田 進、奥寺浩樹、川野 潤、中塚晃彦、森本和也
- (1期目委員5名委員長指名)：興野 純、磯部博志、北脇裕士、栗林貴弘、鈴木正哉
- < 櫻井賞選考委員会 >
- 委員長：松原 聡、委員：清水正明、坂野靖行、宮島 宏、宮脇律郎
- < 研究発表優秀賞選考委員会 (2022年5月21日第2回理事会承認、8月24日第3回理事会委員交代承認) >
- 1期目委員：瀧川晶(副委員長)、岡本 敦*、白勢洋平、伊神洋平、福山繭子
- 2期目委員：吉田健太(委員長)、杉浦悠紀、湯口貴史、糀谷 浩、星出隆志
- (2期目委員任期：2022年9月18日まで；*岡本委員は第3回理事会で承認)
- < 2022年年会運営委員会 >
- 委員長：小西博巳、副委員長：高澤栄一
- 委員：M. Satish-Kumar、高橋俊郎、小河原孝彦、宮島 宏 以上6名
- 磯部博志行事委員会委員長、池田 剛行事委員会副委員長
- < 会長・副会長推薦委員会 >
- 磯部博志(委員長)、井上 徹、川本竜彦、佐藤 努、伴 雅雄
- < 選挙管理委員会 >
- 委員： 則竹史哉、中村佳博、遠藤俊祐
- < 名誉会員検討委員会 >
- 委員長：鍵 裕之
- 委員：安東淳一、阿部なつ江、井上 徹、池田 剛、大和田正明、永井隆哉、永島真理子、吉朝 朗
- < 名誉会員推薦委員会 >
- 委員長：小山内康人
- 委員：土山 明、吉朝 朗、大和田正明、阿部なつ江

2. 2022年8月24日第3回定例理事会審議事項

1. 一般社団法人日本鉱物科学会2021年度定時総会開催日時及び場所について

日時：2022年9月17日(土) 14:30-15:50

場所：新潟大学五十嵐キャンパス 総合教育研究棟 E棟2階 E260室

- ・現地出席者は会場にてZOOM画面スクリーン投影も見る。
- ・現地出席以外の理事・監事・幹事を含む報告者は、説明義務があるのでZOOMで出席する。
- ・現地出席以外の総会出席予定の会員は、ZOOM Meetingで出席する。
- ・欠席予定者には、代理人によってその議決権を行使する委任状又は書面による議決権の行使を通知する。

2. 社員総会の目的事項（報告事項、決議事項）について

(1) 2022年度一般社団法人第7期事業計画紹介（宮脇会長）

(2) 総会の報告事項、決議事項について(2021年度総会資料 決算及び事業報告)(黒澤庶務幹事)

目的事項

報告事項

- ・ 2021年度(一般社団法人第6期)事業報告(和文誌, 英文誌編集, 行事, 広報, 渉外, 庶務Elements, 会員, その他)
- ・ 2022年度(一般社団法人第7期)事業計画書及び収支予算などの件
- ・ 新名誉会員の紹介

その他

決議事項

- ・ 第1号議案 2021年度(一般社団法人第6期)事業報告, 決算承認の件
- ・ 第2号議案 役員(理事、監事)選任の件

資料: 2021年度定時総会資料 決算及び事業報告

1. 2022年度収支予算
2. 2021年度決算報告 1)貸借対照表 2)正味財産増減計算書 3)財務諸表に対する注記 4)附属明細書
3. 監査報告書

授賞式

- | | | |
|------------------|--------------------|----------------|
| 一、日本鉱物科学会賞授与 | 一、渡邊萬次郎賞授与 | 一、日本鉱物科学会論文賞授与 |
| 一、日本鉱物科学会研究奨励賞授与 | 一、日本鉱物科学会応用鉱物科学賞授与 | |
| 一、JMPS学生論文賞授与 | 一、名誉会員認定書授与 | |

名誉会員候補者の推薦委員会答申と審議

2022年5月21日の第2回定例理事会での諮問を受け, 名誉会員推薦委員会で慎重に審議した結果, 2名の名誉会員候補者の推薦があり, 2022年8月24日の第3回定例理事会で2名を名誉会員として承認致しました。

名誉会員推薦委員会内規

1. 一般社団法人日本鉱物科学会は, 必要に応じて名誉会員推薦委員会を置くことができる。
2. 本委員会は, 鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において特に業績顕著な者, または本会に対し特に功労のあった者を名誉会員として理事会に推薦することを目的とする。
なお, 名誉会員の適正総数は会員総数の概ね1.5%前後を目安とする。
3. 本委員会は, 理事会から名誉会員候補者の推薦を行うように諮問された場合に設置される。但し, 理事会において以下を審議し, 承認された場合に限る。
 - (1) 会員幹事は, 5月の第2回定例理事会直前に名誉会員適正総数を確認し, 追加できる名誉会員数がある場合, 理事会に報告する。
 - (2) 会長は, 上記報告を受け, 追加できる名誉会員数が適切であるか理事会に諮り, 審議の結果, 名誉会員の追加が認められた場合。
4. 本委員会は5名の委員で構成する。
 - (1) 委員は, 理事会において正会員, 名誉会員の中から選出して, 会長がこれを委嘱する。
 - (2) 委員の任期は, 委嘱された日から理事会への答申を終える日までとする。但し, その答申に関して定時総会で報告する必要がある場合は, その定時総会終了時までとする。
 - (3) 委員長は委員の中から会長が指名する。
5. 本委員会は, 次に掲げる基準のいずれかを満たす者を名誉会員として理事会に推薦することができる。
 - (1) 鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において, 国際的な賞を受賞した者
例えば, IMA, AGU等での受賞した者。
 - (2) 上記(1)に準ずる賞を受賞した者
 - (3) 鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において, 世界的に顕著な業績をあげた者
 - (4) 本会に対し特に功労のあった者
例えば, 日本鉱物科学会会長や和文誌, 英文誌編集委員長などの重責な任務経験者
6. 本委員会は, 上記5に掲げる基準を満たす名誉会員候補者を選出し, 業績を吟味し, 必要な場合は調査し, それを元に審議し, 名誉会員として相応しい候補者を第2回理事会で認められた人数以内で推薦し, 推薦理由書を添えて理事会に答申する。
7. 会長は, 前項によって答申され, 推薦された名誉会員候補者を理事会に諮り, その承認を得て名誉会員として決定する。
8. 名誉会員認定書の授与は定時総会において行う。
9. 名誉会員の氏名は, 本会ホームページの「名誉会員」ページに写真と共に略歴を記載して公表する。
10. 本内規は, 理事会の議を経て変更することができる。

附則

この内規は, 法人設立登記の日から適用されるものとする。

令和4年(2022年)5月21日改正

<候補者> 説明中の両括弧数字は上記第5条での適用条件の番号に対応

大谷栄治シニア会員

推薦理由

大谷会員は, (1)2006年にAmerican Geophysical Union Fellowとなり, 2017年には H.C. Urey Award (European Association of Geochemistry) および Humboldt Research Award (the Humboldt Foundation) 受賞, 2019年には鉱物学で世界最高位の賞であるIMA medal を受賞するなど極めて高い国際的評価があり, (2)1997年に日本鉱物学会賞を受賞, 2010年に紫綬褒章を受章するなど国内でも顕著な業績が認められている。また, (3) 高温高压条件下での地球内部物質に関する研究でも世界的な業績を挙げている。なお, (4) 鉱物科学会会長・評議員等を歴任し, 本会に対しても顕著な功労があった。

藤野清志シニア会員

推薦理由

(1) 2008年MSA Fellow (Mineralogical Society of America)となり, (2) 2000年に日本鉱物学会賞を受賞するなど, 国内外で高い評価を得ている。(3) 主要ケイ酸塩鉱物のX線精密結晶構造解析, かんらん石やざくろ石の転位構造の研究, 透過電子顕微鏡による輝石その他の鉱物の微細組織・構造の研究, ケイ酸塩ペロブスカイトを中心とした高压鉱物の合成と相関係, 結晶構造, 相変態の研究などで顕著な業績をあげるとともに, 研究教育活動を通じて後進の育成にも尽力されてきた。また, (4) 旧日本鉱物学会会長として学会統合に尽力され, JMPS編集委員長等を歴任するなど, 本会に対しても顕著な功労があった。

【2】 将来企画委員会報告

1. 2021年9月17日第1回定例理事会報告

1) 2022世界鉱物年に向けた企画案：対外的には文科省で毎年夏に開催される「科学の普及」企画への応募，SNSやYoutube等での情報発信の充実，博物館での鉱物展示の脇に世界鉱物年のロゴ設置を検討．学会内では，JMPSとGKKでの特集号や著者承諾を得た場合は論文トップページにロゴを入れることも検討中．2) 鉱物写真の有効活用：宝石協会から依頼された切手用写真の未使用ストックが大量にあり，これらの有効活用について検討予定．

<雑誌・編集，事務局体制再建の件>

1. 2021年9月17日第1回定例理事会 財政，雑誌・編集，事務局体制再建に向けた検討報告（大和田副会長）

大和田副会長より，電子ジャーナル化について実施に向けた課題の解決を図り，今後は事務局関係についても検討を進めるとの報告がなされた．

2. 2021年12月13日第1回臨時理事会 財政，雑誌・編集，事務局体制再建に向けた検討報告（大和田副会長）

雑誌の編集・出版業務と事務局の体制について，2021年12月から2022年9月までに予想されるスケジュールを理事会で共有したいと思います．

今後の予定

- ・1～3月：JMPSとGKKで23年1号からの編集業務を委託する業者の検討
- ・1～3月：代表理事，庶務幹事，会計幹事を中心として23年4月以降の事務体制の議論
- ・4月：編集業務の委託先提案
- ・4月：事務体制の方針提案
- ・5月：第2回定例理事会，雑誌編集業務提携を前提とした予算案の承認
- ・5月：第2回定例理事会，新事務体制の承認
- ・7月：事務局体制の補正予算案承認（臨時理事会開催）

3. 2021年12月13日第1回臨時理事会 審議事項内容と承認

第5号議案 JMPS電子ジャーナル業務委託(請負契約)とJMPS編集業務委託(準委任契約)の審議

(吉朝英文誌編集幹事・理事：代理 永井英文誌編集委員会副委員長・理事)

1) 2022年4月から12月までの電子ジャーナル印刷請負契約について

永井副委員長より，2022年3月で契約満了となる小宮山印刷工業との印刷請負契約について，図をカラー化しても白黒と同額であることから，2022年12月まで継続契約をすることが提案され，異議なく承認された．

2) 2023年1月からの電子ジャーナル業務委託(請負契約)と編集業務委託契約(準委任契約)について

永井副委員長より，2023年1月からの委託業務契約を検討するため，数社の見積から委託業者を2022年4月までに検討することが提案され，異議なく承認された．

第6号議案 GKK電子ジャーナル発行による変更について（大藤委員・理事：説明 高澤和文誌編集幹事）

高澤和文誌編集幹事より先のGKK編集委員会審議結果，ページチャージ料金2,500円の据え置き，2022年1月からJ-Stage公開論文の3年間非会員非公開解除，無料別刷の廃止，2022年4月から12月までのGKK電子ジャーナル作成業務委託(請負)契約を現在の小宮山印刷工業と継続契約をする，2023年1月からのGKK印刷業務(請負契約)および編集業務委託(準委任契約)業者について複数から見積を取り，JMPSと協議する場を設けて選定を進めていくこと等，再度説明があり，大藤理事により提案がなされ，異議なく承認された．

4. 2022年3月31日第2回臨時理事会 財政，雑誌・編集，事務局体制再建に向けた検討報告（大和田副会長）

大和田副会長より，これまで雑誌の編集・刊行体制についての議論を進めており，詳細は議案でも述べられる通りで，電子ジャーナル化については既に実施となっており，今後は事務局業務委託も併せて検討を進めるとの報告がなされた．

5. 2022年3月31日第2回臨時理事会 審議事項内容と承認

第3号議案 GKKの2023年1月からの電子ジャーナル作成請負契約先と編集業務委託先について

(大和田WG委員長・理事，高澤GKK編集委員長)

大和田WG委員長・副会長より，2023年1月からの電子ジャーナル作成請負契約先と編集業務委託先について，小宮山印刷工業株式会社へ委託するとの提案がなされ，見積書の検討など選定の経緯についての高澤編集委員長による説明の後，異議なく承認された．

第4号議案 JMPSの2023年1月からの電子ジャーナル作成請負契約先と編集業務委託先について

(大和田WG委員長・理事，吉朝委員長代理：永井副委員長・理事)

大和田WG委員長・副会長より，2023年1月からの電子ジャーナル作成請負契約先と編集業務委託先について，小宮山印刷工業株式会社への委託を第一候補として検討を進めたいとの提案がなされた．その後，永井副編集委員長より，下記の検討結果の説明がなされた．2023年1月からの印刷(請負契約)と編集業務委託(準委任)契約についての説明：小宮山印刷工業と国際文献社から電子ジャーナル化とJMPS編集委託費についての見積書を取り，詳細について，委員長，副委員長，大和田WG委員長，事務が参加するインタビューを2社に対して実施し，内容を検討した．結果，JMPSでは，本件を編集幹事案件として編集委員会にまだかけていないが，上記2社いずれであっても，国内外からの投稿の受付から査読，編集，J-Stageでの公開へのプロセスは，現在から大きく変更することなく維持できると判断した．但し，金額的な面では小宮山印刷工業が若干良い条件であり，これまでの繋がりもあることから，来年度に向けて，今年度準備していく作業等がスムーズであろうという判断もしている．最終決定や契約については，GKKの編集委託先との兼ね合い，将来的な事務局体制などとあわせて執行部・理事会での総合的な判断をお願いする．なお，小宮山印刷工業では，現在下記等の英文の学会誌を出版しており，Editorial Managerシステム(英語版)や Scholar One Manuscripts(英語版)を利用した編集業務も実施しており，自社運営の投稿サイトも開発中で現在テスト運営中であること，海外からの投稿に対する英語メールでの対応も可能であることである．

(現在の出版例) 日本衛生学会 Environmental Health and Preventive Medicine，電気化学会 Electrochemistry，日本金属学会 MATERIALS TRANSACTIONS、日本金属学会誌，日本学士院 Proceedings of the Japan Academy, Ser. A,B，日本セラミックス協会 Journal of the Ceramic Society of Japan，日本物理学会 Journal of the Physical Society of Japan，日本化学会 Bulletin of the Chemical Society of Japan，Chemistry Letters

また，JMPSは現在1ページ当たり6000円のページチャージを徴収し，全体として年間約200万円弱の収入を見込んでいる．作成・編集・印刷の委託経費の見積額としては300万円弱であるため，差し引き100万円程度が学会からの支出分となる．学会誌としての性格上，この支出分はご承諾いただきたいとの説明があった．以上の説明の後，議案は異議なく承認された．

6. 2022年5月21日第2回定例理事会 財政，雑誌・編集，事務局体制再建に向けた検討報告（大和田副会長）

現在，事務局につきましては，業務委託の可能性を検討するため，幾つかの会社から委託の際の見積りを取ることを進めております．将来の学会事務局のあり方の一つとして，学会事務の業務委託も一つの選択肢として検討を進めてよいか，ご審議の程，どうぞよろし

くお願い致します。

- 2022年5月21日第2回定例理事会 審議事項内容と承認 第8号議案 事務局業務委託に関する検討方針(大和田副会長)
大和田副会長より、将来の学会事務局のあり方の1つの案として、学会事務の業務委託も一つの選択肢として検討を進めたいとの提案がなされた。審議の上、異議なく承認された。
- 2022年8月24日第3回定例理事会 事務局体制再建に向けた検討報告(大和田副会長)
事務局業務の委託について、6月に1社見積をしましたが、委託するには難しい金額で断念し、現在新たに2社に見積書を依頼しています。

【3】JpGU 2022年学会選出プログラム委員報告(門馬委員長)

- 2021年12月13日第1回臨時理事会報告
門馬学会選出プログラム委員より、JpGU2022でのセッションについて以下の通り報告がなされた。
JpGU2022での学協会セッションとして、「岩石・鉱物・資源(コンビーナ:野崎 達生・西原 遊・門馬 綱一・嶺 佑衣)」、「鉱物の物理化学(コンビーナ:大平 格・柿澤 翔)」の2つを指定。「岩石・鉱物・資源」は資源地質学会・日本地質学会との共催予定。

【4】地惑連合報告(阿部連絡担当委員・理事)

- 2021年9月17日第1回定例理事会
阿部JpGU地惑連合連絡担当委員より、JpGU理事会関係についての以下の報告がなされた。
日本地球惑星科学連合2022年大会は、2022年5月22日(日)~5月27日(金)に幕張メッセで開催予定。開催形態はハイブリッド方式(オンライン+現地)の予定、プログラム委員長は石渡正樹氏(北海道大学)。大会のプログラム委員として正副各1名を選出し、9月27日までに登録することが必要。
- 2022年5月21日第2回定例理事会
阿部JpGU地惑連合連絡担当委員より、JpGU理事会関係についての以下の報告がなされた。
1)JpGU2022大会:2022年5月22日(日)~6月3日(金)に現地参加とオンライン参加のハイブリッド型で実施。5月30日(月)には学協会長会議を開催予定。

【5】学術会議報告(西山学術会議連携会員)

- 2021年9月17日第1回定例理事会
西山委員長より、2021年9月17日に開催されたIMA小委員会の以下の事項について報告がなされた。
1)IMAにおける以下の3ワーキンググループの新設置が報告され、日本から10月末まで若手の参加募集依頼があった。
Nanomineralogy, Biominerals and environmental mineralogy, Big data in mineralogy
2)IMA2022(フランス・リヨン)の学術セッションプロポーザル募集(9月一杯)
- 2021年12月13日第1回臨時理事会報告
大藤理事より、2022年7月18日から22日までリヨンで開催されるIMAについて、この会議は完全オンサイトでの実施予定で、約30のセッションを設定、アブストラクト締め切りは2022年3月初旬ごろとの報告がなされた。
- 2022年5月21日第2回定例理事会
大藤理事より、IMAリヨン2022での開催の件について下記の報告がなされた。
最終的に、五百数十件の発表申込みがあった。コストとスポンサーの関係で、ハイブリッド方式の開催は難しく、現地参加の開催となっている。ウクライナ情勢に関連して、現在、ロシアとベラルーシからの研究者の参加を公式には認めない形となっている。2026年のIMAは南京で開催を予定。報告の後、ダイバーシティやジェンダーへの対応の観点から、ハイブリッド方式の開催形態が望ましいとの意見があり、今後そのような申し入れを行っていくとのことになった。
- 2022年8月24日第3回定例理事会
IMA 2022 Lyonの報告とBusiness meetingの報告をさせていただきます(大藤カウンセラー)。
<IMA 2022 Lyonの報告>
7月18-22日の日程でフランス・リヨンにてIMA2022が開催された。33の学術セッションが立てられ完全対面形式で行われたが、新型コロナウイルスやウクライナ情勢の影響で中国・アメリカ・ロシアからの参加者はほとんどなく、参加者は400名弱と小規模であった(日本人参加者は21名)。それでも久しぶりの対面開催の国際会議ということで、連日オールセッション、ポスターセッションにおいて活発に議論が交わされた。企業による展示ブースも少数だが出展されていた。次回のIMA2026は中国・南京で行われる予定。
<IMA Business meetingの報告>
会期中2回のBusiness meetingが開催された。初回のBusiness meetingでの主な議題は以下の通り。
・前回のメルボルン大会以後の4年間の活動の総括、予算状況の報告 ・ワーキンググループ設立の報告 ・2022 IMAメダル受賞者(Patricia Dove)の報告および審査委員交代の報告 ・IMA Ph.D. Student Awardの報告(受賞者5名、うち日本人1名(東北大・福島君))
・IMAカウンシル役員選挙の候補者の紹介 ・IMAウェブサイトの更新計画 ・IMA2026(南京)の準備状況報告
新たに設立された3つのワーキンググループの執行部メンバー
<Nano-Mineralogy>
Chair: Juan Liu (Peking Univ., China), Vice-Chair: Keisuke Fukushi (Kanazawa Univ., Japan), Vice-Chair: Michael Schindler (Univ. Manitoba, Canada), Secretary: Alejandro Fernandez-Martinez (Univ. Grenoble Alpes, France)
<Mineral Informatics>
Chair: Robert M. Hazen (Carnegie Inst. Sci., USA), Vice-Chair: Sergey V. Krivovichev (Saint-Petersburg State Univ., Russia)
Vice-Chair: Yan Li (Peking Univ., China), Secretary: Shauna M. Morrison, Carnegie Institution for Science, USA
<Biomineralogy and environment>
Chair: Prof. Giovanni di Giudici (Università di Cagliari, Italia), Vice-Chair: Dr Kevin Rosso (Pacific Northwest National Lab. USA)
Vice-Chair: Prof. Jurai Maizlan (Univ. Jena, Germany), Secretary: Karen Hudson-Edwards (Exeter Univ. UK)
2回目のBusiness meetingでは、IMAの新役員候補者への投票を行った。結果は以下の通り。
・1st Vice-President 候補者2名から1名(Eiji Ohtani)を選出 ・2nd Vice-President候補者1名(Xiancai Lu, IMA2026 LOC委員長)を承認
・Communication Officer 候補者1名(Michele Zema)を承認 ・新Council member 候補者4名から2名(Desh Chetty, Shauna Morrison)を選出 このほか、全てのIMAコミッションの活動評価に関する承認、CNMNC、COMコミッションの執行委員交代の承認、新たに提案

された3つのワーキンググループの承認などが行われた。

【6】教育普及委員会報告（林信太郎委員長）

1. 2021年12月13日第1回臨時理事会報告

林教育普及委員会委員長より、委員会活動について以下の通り報告がなされた。

教育普及委員会内規により、長瀬敏郎委員の後任委員として、川本竜彦会員・理事を指名し、本人の承諾、および当委員会の了承を受けた。また、鉱物の和名表記について、教科書会社にも連絡して検討をはじめている。この件では、以前の文科省の学術用語集のような、教育関係・GKK編集でも利用できるようなガイドラインを検討してほしいとの意見があった。

2. 2022年3月31日第2回臨時理事会

林教育普及委員会委員長より、2022年3月21日開催の教育普及委員会について以下の報告がなされた。

(1)中学校理科教科書の鉱物名表記：教科書には7種類の鉱物が記載され、その表記には漢字表記のものとカタカナ+石の2種類があり、この状況は高校受験を控える中学生にとって悪影響がある。鉱物名表記の状況を調べるため、学術用語集や鉱物科学会の文書、近年(2018年-2021年)の岩石鉱物科学の論文でチェックした結果、カンラン石には4種類の表記(カンラン石、かんらん石、オリビン、オリブ石)があった以外は漢字表記であった。そこで、教科書に掲載の7種の鉱物(カンラン石、輝石、角閃石、黒雲母、磁鉄鉱、石英、長石)について、(A)正式な和名の表記法の案と(B)教科書会社への提案を分けて検討した。(A)は、カンラン石以外は漢字表記が基本と考えるが、鉱物科学会での正式な検討が必要である。カンラン石の4種類の表記法については、日本鉱物科学会「鉱物科学に関する用語検討委員会」の「直方晶系(斜方晶系)」への対応での「鉱物名和名の今後の方針案」を基準とすると、この4種類とも合理性を持つように思える。理事会での検討をお願いしたい。(B)は、現在委員会で検討中で、今後理事会に提案する予定。現時点では、カンラン石、輝石、角閃石、黒雲母、磁鉄鉱、石英、長石の用法が有力だが、角閃石の「閃」は当用漢字でないので「セン」とする可能性もある。今後教科書会社とも内々に議論する予定で、「鉱物科学会の推奨する中学校理科教科書の鉱物名の表記法」を理事会に提案したい。(参考)鉱物名の和文表記の歴史の概略：1)日本鉱物学会評議員会(1955)：「石」と「鉱」のみを漢字とし、他は全部カタカナを用い新かな使いとする。(カタカナ表記)。2)「学術用語 地学編」文部省(1984)：「石」と「鉱」のみを漢字とし、他は片仮名で書くが、平易な漢字が慣用されているものも併記(漢字、カタカナ併記)。3)鉱物科学に関する用語検討委員会答申(2015)：「和名では、学名由来に対応する漢字が当てられる場合(漢字文化圏の地名や人名など)はそれを用い(基本は漢字表記；多様な表記を許容しているように見える)。

(2)鉱物科学会会員の教育普及活動例の収集：現在、教育普及活動例を収集している。JOGMECの高校生を対象とした「金属資源講話」、milsil(国立科学博物館の情報誌)の「鉱物の世界を楽しむ」シリーズ、林会員による秋田魁新報こども新聞への連載など、25例を発見した。他にもあれば、ご連絡をお願いしたい。

報告の後、カンラン石については、地質学会が公開している地質学用語集や鉱物科学会監修の鉱物・宝石の科学事典では、ひらがなで表記されているとの意見があった。この件について、辞典では、外来語はカタカナ表記を基本とするが、外来語でも慣用的に漢字を使っている名前については漢字表記としている。カンランは外来語ではないので、ひらがな表記になったとの説明があった。また、JIS規格のような他領域での用例も参照した方がよいこと、教育上、当用漢字で表記できないものはひらがな表記が望ましいこと、多数の鉱物名を列記する際はカタカナ表記が読みやすいこと、一般へのプレゼンではひらがな表記よりもカタカナ表記の方が伝わりやすいことなどの意見があった。教科書会社への提案とも関連するので、この件については、鉱物科学会として推奨する和名の検討をお願いしたいとの意見となった。この検討は、和文誌編集委員会との合同で用語検討委員会などを設けるのが適当とのことになった。

【7】博物館委員会報告（坂野委員長）

1. 2021年9月17日第1回定例理事会

坂野委員長より、以下の報告がなされた。

2021年8月25日に開催されたIMA博物館委員会ビジネスミーティングに委員長として出席。国際会議M&M10(2024)会議開催に関してイギリス他から提案があり、2022年初め頃に開催地決定という方針を決定。また、長瀬敏郎会員の交代委員として、三河内岳会員及び上原誠一郎会員が委員長により指名され、委員会です承された。

2. 2022年3月31日第2回臨時理事会

坂野博物館委員会委員長より、2021年12月14日と2022年3月2日に開催のIMA博物館委員会ビジネスミーティングについて以下の通り報告がなされた。ビジネスミーティングには委員長が出席し、国際会議M&M10(2024)開催地選定方法を議論した。選定方法に関するガイドラインの可否投票が行なわれ、ガイドラインは正式に締結された。それに従って英国と中国から開催立候補の提案書が提出された。その後、博物館委員会でそれらをメールベースで検討し、英国に投票することを決めた。国際投票の結果、次回開催地は英国となった。

3. 2022年8月24日第3回定例理事会

1) 2022年7月18日に開催のIMA博物館委員会ビジネスミーティング報告

これまでの活動の総括(国際会議M&M10(2024)開催地選定方法のガイドライン締結、委員による投票の結果M&M10開催地は英国ウェールズ国立博物館に決定)がなされ、M&M10の準備状況が報告された。

2) 世界鉱物年への対応

世界鉱物年ロゴと世界鉱物年の簡単な説明文からなるパワーポイントファイルを作成し、自然史系博物館の鉱物展示室に上記ファイルを印刷したものを掲出してもらうように働きかけた。現時点では6館(科博、フォッサマグナミュージアム、北九州市立いのちのたび博物館、中津川市立鉱物博物館、奇石博物館、産総研地質標本館)でロゴが掲示されている。

【8】新鉱物・命名・分類委員会報告（門馬委員長）

2022年8月24日第3回定例理事会

昨年承認された日本産新鉱物や、CNMNCでの承認された新種数などを報告する予定。

【9】研究部会「岩石-水相互作用」および WRI-17組織委員会報告（土屋 WRI-17組織委員長・理事）

1. 2021年9月17日第1回定例理事会

土屋代表より、本年もスペシャルセッション「S2: 岩石-水相互作用」が開催されたこと、来年開催予定の国際会議WRI-17について、2023年の7月または8月に延期して開催を計画している旨、報告がなされた。

2. 2021年12月13日第1回臨時理事会 WRI-17組織委員会報告（土屋理事：代理 黒澤庶務幹事・理事）

黒澤庶務幹事より、第17回 Water-Rock Interactionの開催(鉱物科学会共催)が、IAGC (International Association of GeoChemistry)との協議により、2023年8月開催予定で、現在、鉱物科学会から学術会議に対し、国際会議主催に関する助成を申請中との報告がなされた。

3. 2022年5月21日第2回定例理事会 WRI-17組織委員会報告（土屋 WRI-17組織委員長・理事）

第17回岩石 水相互作用国際会議 The 17th Congress of Water-Rock Interaction (WRI-17) and the 14th Applied Isotope Geochemistry (AIG14) は、2023年8月17日から8月23日に仙台市「仙台国際センター」で開催する (<https://www.wri17.com/>)。今後、コンビーナーの選定、発表の募集等を進める予定。開催形態もハイブリッド方式の方向で検討を進めている。

【10】会員報告（阿部会員幹事・理事）

1. 2022年5月21日第2回定例理事会審議

名誉会員推薦委員会設置に関する提案（阿部会員幹事・理事、宮脇会長）

改正された名誉会員推薦委員会内規に沿って、名誉会員推薦委員会の設置が進められた。1)阿部会員幹事より理事会に以下の報告がなされた。今回の第2回定例理事会(2022年5月21日)での会員数818名と改正された名誉会員推薦委員会内規の名誉会員適正総数概ね1.5%から考えると、適正とされる名誉会員数は約12名であり、現在の名誉会員数は9名であることから、追加できる名誉会員数があり、最大3名の会員を名誉会員に推薦できる状況にあることが報告された。2)宮脇会長はこの結果を受け、追加できる名誉会員数として最大3名が適切であるかどうか理事会に諮り、審議の上、異議なく最大3名の名誉会員の追加が適切であると承認された。3)名誉会員追加の承認を受けたことにより、理事会は、名誉会員候補者の推薦を行うため名誉会員推薦委員会を設置し諮問することになった。4)名誉会員推薦委員会設置について、昨年委嘱された名誉会員推薦委員会(小山内委員長)の設置は、議事録から継続された状況にあるという意見があったが、宮脇会長より、昨年からの推薦委員会は昨年の2021年8月28日(土)に答申しているため、内規「委嘱された日から理事会への答申を終える日までとする。」に該当すると解釈して一旦任期終了とすること、および今回改正された名誉会員推薦委員会内規の下で、新たな名誉会員推薦委員会を立ち上げる提案がなされ、審議の上、異議なく承認された。以上から、宮脇会長より、名誉会員推薦委員会委員5名の選出について、これまでの経緯を踏まえ、昨年委嘱された委員(下記)を改めて理事会で選出する提案がなされ、審議の上、異議なく承認された。委員長については、ご本人の了承を経てください。委員長(委員の中から会長指名・委嘱)：小山内康人委員(5名)：小山内康人、土山 明、吉朝朗、大和田正明、阿部なつ江上記委員は、会長から委員委嘱があり次第、名誉会員候補者の推薦作業を進めることになった。

2. 2022年8月24日第3回定例理事会報告

2021年度中の会員増減 会員推移

818名人(5/21現在) - 2(物故) - 24(退会) - 11(停止) - 1(不明) + 29(8/24入会承認) = 809人(8/24現在)

	過去会員推移											2022年8月24日まで					
	2007 9/20	2008 9/21	2009 9/9	2010 9/23	2011 9/8	2012 9/19	2013 9/11	2014 9/18	2015 9/25	2016 9/24	2017 8/12	2017 9/12	2018 9/3	2019 8/2	2020 8/29	2021 8/28	2022 8/24
一般会員 (R)	892	886	865	846	840	702	686	672	652	628	598	602	583	565	554	541	524
シニア会員 (RS)						139	142	148	154	171	175	175	178	175	176	172	168
学生会員 (S)	78	76	78	68	88	103	94	87	88	83	81	83	84	90	72	88	78
永年会員 (L)	39	36	33	37	39	37	40	41	36	34	35	35	35	36	32	32	28
名誉会員 (H)	11	9	9	7	7	7	6	6	13	13	17	17	16	14	10	9	11
会員合計	1020	1009	985	958	974	988	968	954	943	929	906	912	896	880	844	842	809

シニア会員から名誉会員へ2名移動

【11】細則等検討委員会報告（大和田細則等検討特務幹事・理事）

1. 2022年5月21日第2回定例理事会 審議事項答申内容と承認

名誉会員推薦委員会内規の変更および運営細則の一部修正に関する件（大和田細則等検討幹事・理事）

下線部：加筆・修正部分

名誉会員推薦委員会内規<修正案> 下線部：加筆・修正部分

- 一般社団法人日本鉱物科学会は、必要に応じて名誉会員推薦委員会を置くことができる。
- 本委員会は、鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において特に業績顕著な者、または本会に対し特に功労のあった者を名誉会員として理事会に推薦することを目的とする。

なお、名誉会員の適正総数は会員総数の概ね1.5%とする。

- 本委員会は、理事会から名誉会員候補者の推薦を行うように諮問された場合に設置される。但し、理事会において以下を審議し、承認された場合に限る。

- （1）会員幹事は、5月の第2回定例理事会直前に名誉会員適正総数を確認し、追加できる名誉会員数がある場合、理事会に報告する。
- （2）会長は、上記報告を受け、追加できる名誉会員数が適切であるか理事会に諮り、審議の結果、名誉会員の追加が認められた場合。

- 本委員会は5名の委員で構成する。

- （1）委員は、理事会において正会員、名誉会員の中から選出して、会長がこれを委嘱する。
- （2）委員の任期は、委嘱された日から理事会への答申を終える日までとする。但し、その答申に関して定時総会で報告する必要がある場合は、その定時総会終了時までとする。
- （3）委員長は委員の中から会長が指名する。

- 本委員会は、次に掲げる基準のいずれかを満たす者を名誉会員として理事会に推薦することができる。

- （1）鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において、国際的な賞を受賞した者
- （2）上記(1)に準ずる賞を受賞した者
- （3）鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において、世界的に顕著な業績をあげた者
- （4）本会に対し特に功労のあった者

例えば、日本鉱物科学会会長や和文誌、英文誌編集委員長などの重要な任務経験者

- 本委員会は、上記5に掲げる基準を満たす名誉会員候補者を選出し、業績を吟味し、必要な場合は調査し、それを元に審議し、名誉会員として相応しい候補者を第2回理事会で認められた人数以内で推薦し、推薦理由書を添えて理事会に答申する。

- 会長は、前項によって答申され、推薦された名誉会員候補者を理事会に諮り、その承認を得て名誉会員として決定する。

- 名誉会員認定書の授与は定時総会において行う。

- 名誉会員の氏名は、本会ホームページ等に写真と共に略歴を記載して公表する。

- 本内規は、理事会の議を経て変更することができる。

附則

この内規は、法人設立登記の日から適用されるものとする。

令和4年(2022年)5月21日改正

運営細則<修正案> 下線部：加筆・修正部分
表彰等

第26条 本会には日本鉱物科学会賞、渡邊萬次郎賞、日本鉱物科学会論文賞、日本鉱物科学会研究奨励賞、日本鉱物科学会応用鉱物科学賞、櫻井賞、及び櫻井奨励賞を設ける。また必要に応じて、年会における優秀な研究発表、鉱物科学ならびに学会活動への特別な貢献に対して表彰を行う。

2 本会は、鉱物科学及びその関連分野で顕著な研究業績をあげた会員に対し、日本鉱物科学会賞を贈呈する。

3 本会は、渡邊萬次郎博士の寄付金を基金とし、鉱物科学及びその関連分野において卓越した研究業績をあげ、長年にわたりこれらの分野の発展に貢献した者に、渡邊萬次郎賞を贈呈する。

4 本会は、会誌に発表された本会会員による優れた研究論文を選び、その著者に対し、日本鉱物科学会論文賞を贈呈する。

5 本会は、研究の奨励を目的として、顕著な研究業績をあげた関連分野における若手の会員に対し、日本鉱物科学会奨励賞を贈呈する。

6 本会は、鉱物科学の応用研究分野で顕著な業績をあげた者に対し、日本鉱物科学会応用鉱物科学賞を贈呈する。

7 本会は、櫻井記念基金を基とし、新鉱物の発見に貢献し記載鉱物学の分野で顕著な業績をあげた会員に対し、櫻井賞を、記載鉱物学上の顕著な業績のあった若手の会員に対し、櫻井奨励賞を贈呈する。

8 本会は、鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において特に業績顕著な者、または本会に対し功労のあった者を名誉会員とし、認定書を授与する。

第27条 日本鉱物科学会賞、渡邊萬次郎賞、日本鉱物科学会論文賞、日本鉱物科学会奨励賞、日本鉱物科学会応用鉱物科学賞、櫻井賞、及び櫻井奨励賞の受賞者の選考は、別に定める各賞の規程及び名誉会員推薦委員会内規にしたがって行い、理事会において決定する。

2. 2022年8月24日第3回定例理事会 審議事項答申内容と承認

運営細則の一部修正に関する件（大和田細則等検討幹事・理事）

<修正部分抜粋> 取り消し線部分・修正部分（下線）を追記

第5条 各幹事は次に掲げる業務を分担する。

(1) 庶務

(イ) 総会、理事会及び幹事会に関する事項

(ロ) 記録の作成・整理及び保管

(ハ) 文書の発受及び保管

(ニ) 出版物の配布

(ホ) 事務局の管理

(ヘ) 表彰に関する事項

(ト) 国内外からの寄贈・交換図書の整理と保管

会誌その他の発行物

第22条 本会は会誌として和文誌（岩石鉱物科学）を毎年4回、と英文誌（Journal of Mineralogical and Petrological Sciences）を毎年6回発行する。

2 岩石鉱物科学は学術論文のほか、総説、解説、学会記事、ニュースなど、和文誌編集委員会が適当と認めた事項を掲載する。

3 Journal of Mineralogical and Petrological Sciences (JMPS)は学術論文のほか、JMPS編集委員会が適当と認めた事項を掲載する。

第23条 ~~会員名簿を発行する。~~

第243条 その他の出版物の発行は幹事会で企画立案し、理事会の承認を経て行う。

第264条 その他の出版物を必要に応じて会員に配付することがある。

．2022年度（一般社団法人第7期）事業計画書及び収支予算案などの件

1. 2022年度事業計画紹介（宮脇会長）

以下の本会の事業を第7期も継続して行ってまいります。

編集事業：岩石鉱物科学、Journal of Mineralogical and Petrological Sciencesの発行

行事事業：2023年年会(大阪公立大学)の開催と2022年度定時社員総会の開催，一般普及講演，各賞の表彰事業

その他本会の目的を達成するために必要な事業

また、この1年間、執行部、理事は、学会事業の見直しを検討し、事務局と役員業務の改革を検討し、会員の皆様に提示したところで、第7期では、学会事業の見直しをさらに進め、学術活動に専念できる体制を固め、会員のみならず、社会にも貢献する体制を拡充して参りたいと思います。

2. 2022年度収支予算紹介(18頁に掲載)（栗林会計幹事）

2022年8月24日に開催された第3回定例理事会にて、2022年度会計収支予算が承認されましたので次ページに紹介します。

．新名誉会員の紹介（宮脇会長）

大谷栄治シニア会員

推薦理由

大谷会員は、(1)2006年にAmerican Geophysical Union Fellowとなり、2017年には H.C. Urey Award (European Association of Geochemistry) および Humboldt Research Award (the Humboldt Foundation) 受賞、2019年には鉱物学で世界最高位の賞であるIMA medal を受賞するなど極めて高い国際的評価があり、(2)1997年に日本鉱物学会賞を受賞、2010年に紫綬褒章を受章するなど国内でも顕著な業績が認められている。また、(3) 高温高压条件下での地球内部物質に関する研究でも世界的な業績を挙げている。なお、(4) 鉱物科学会会長・評議員等を歴任し、本会に対しても顕著な功労があった。

藤野清志シニア会員

推薦理由

(1) 2008年MSA Fellow (Mineralogical Society of America) となり、(2) 2000年に日本鉱物学会賞を受賞するなど、国内外で高い評価を得ている。(3) 主要ケイ酸塩鉱物のX線精密結晶構造解析、かんらん石やザクロ石の転位構造の研究、透過電子顕微鏡による輝石その他の鉱物の微細組織・構造の研究、ケイ酸塩ペロブスカイトを中心とした高压鉱物の合成と相関係、結晶構造、相変態の研究などで顕著な業績をあげるとともに、研究教育活動を通じて後進の育成にも尽力されてきた。また、(4) 旧日本鉱物学会会長として学会統合に尽力され、JMPS編集委員長等を歴任するなど、本会に対しても顕著な功労があった。

その他

一般社団法人日本鉱物科学会2022年度 会計収支予算	
2022年8月1日から2023年7月31日まで	
科 目	予 算
経常収益	予算
会費収入	6,702,000
一般会員	4,716,000
シニア会員	959,000
シニア会員EI不要	155,000
学生会員	312,000
賛助会員	260,000
未収会費	300,000
出版物収入	1,935,000
和文誌（GKK）収入	125,000
英文誌（JMPS）収入	1,800,000
バックナンバーその他	10,000
広告収入	125,000
年会収入	1,200,000
雑収入	150,000
経常収益計	10,112,000
前年度繰越金	5,627,378
経常収入合計	15,739,378
特定資産前年度繰越金	5,827,561
学会誌等刊行基金	3,477,084
学会賞・奨励賞・論文賞基金	517,952
渡邊萬次郎賞基金	83,169
国際学会・年会基金	1,749,356
収入合計	21,566,939
科 目	予 算
経常費用	
刊行費	2,945,508
GKK電子ジャーナル費	370,000
GKK電子ジャーナル費	235,000
GKK編集業務委託費	144,375
GKK小計	749,375
JMPS電子ジャーナル費	780,000
JMPS電子ジャーナル費	735,000
JMPS編集業務委託費	621,133
JMPS小計	2,136,133
J-Stage-EM利用料	60,000
集会費	1,250,000
年会開催費	1,200,000
会議費	50,000
学会賞副賞	165,000
鉱物学会賞記念品費	35,000
研究奨励賞記念品	40,000
応用鉱物科学賞	20,000
論文賞記念品	15,000
渡邊萬次郎賞記念品	5,000
受賞者懇親会費	0
受賞者参加費	0
発表賞支援金	50,000
Elements購読会費	1,502,312
管理費	5,124,300
支払報酬料	470,000
租税公課	3,000
法人税、住民税及び事業税	109,300
給料手当	2,200,000
法定福利費	230,000
旅費交通費通動手当	80,000
事務局委託費	1,000,000
臨時雇賃金	20,000
旅費交通費出張費	0
水道光熱費	20,000
地代家賃	70,000
通信費電話回線料	125,000
通信費郵送料など	60,000
送金手数料	70,000
消耗品費PC関係	40,000
消耗品費コピー利用代	36,000
消耗品費その他	20,000
ホームページ制作費	451,000
ホームページ管理費	50,000
鉱物ポスター印刷費	0
支払寄付金（地学オリンピック）	50,000
雑費	20,000
経常費用計	10,987,120
次年度繰越金合計	10,579,819
支出合計	21,566,939

決議事項

・第1号議案 2021年度（一般社団法人第6期）事業報告，決算承認の件

（宮脇会長 説明：栗林会計幹事，監査報告：小暮監事）

上記に記載しました2021年度事業報告に続き，以下の決算についての説明をいたします。その後，監査報告をいたしますので，事業報告と決算について，ご審議をお願いします。

1. 2021年度（一般社団法人第6期）決算について(説明：栗林会計幹事)

(1)貸借対照表

貸借対照表			
令和 4年 7月31日現在			
一般社団法人日本鉱物科学会			
			(単位：円)
科 目	当年度	前年度	増 減
資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	5,738,998	4,310,748	1,428,250
前払費用	551,669	357,500	194,169
流動資産合計	6,290,667	4,668,248	1,622,419
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
学会賞等刊行基金	3,477,084	3,477,060	24
学会賞・奨励賞・論文賞基金	517,952	664,875	146,923
渡邊萬次郎賞基金	83,169	83,169	0
国際学会・年会基金	1,749,356	1,799,341	49,985
特定資産合計	5,827,561	6,024,445	196,884
固定資産合計	5,827,561	6,024,445	196,884
資産合計	12,118,228	10,692,693	1,425,535
負債の部			
1. 流動負債			
未払金	55,480	57,340	1,860
前受会費	418,500	405,000	13,500
預り金	80,009	80,235	226
未払法人税等	109,300	184,400	75,100
流動負債合計	663,289	726,975	63,686
負債合計	663,289	726,975	63,686
正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	(5,827,561)	(6,024,445)	(196,884)
正味財産合計	11,454,939	9,965,718	1,489,221
負債及び正味財産合計	12,118,228	10,692,693	1,425,535

(2)正味財産増減計算書

正味財産増減計算書			
令和 3年 8月 1日から令和 4年 7月31日まで			
一般社団法人日本鉱物科学会			
(単位:円)			
科 目	当年度	前年度	増 減
一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
会費収入	7,522,142	7,311,221	210,921
一般会員	4,643,500	4,628,000	15,500
学生会員	318,500	277,000	41,500
シニア会員	1,090,000	1,146,000	56,000
永年・名誉会員	6,000	12,000	6,000
購読会員	545,130	609,501	64,371
賛助会員	260,000	260,000	0
前年度分会費	659,012	378,720	280,292
出版物収入	1,519,400	3,074,038	1,554,638
和文誌(GKK)収入	65,600	91,500	25,900
英文誌(JMPS)収入	1,402,200	2,963,188	1,560,988
バックナンバーその他	51,600	19,350	32,250
広告収入	0	25,000	25,000
年会収入	1,919,000	328,000	1,591,000
参加費	1,685,000	328,000	1,357,000
展示料収入	150,000	0	150,000
受取助成金	80,000	0	80,000
キャンセル料	4,000	0	4,000
雑収入	233,264	962,529	729,265
著作権料収入	150,184	147,969	2,215
受取利息	83	83	0
編集作業収入	58,332	782,118	723,786
雑収入	24,665	32,359	7,694
経常収益計	11,193,806	11,700,788	506,982
(2) 経常費用			
刊行費	3,000,813	4,528,095	1,527,282
GKK印刷本冊費	620,848	753,374	132,526
GKKその他印刷費	96,151	39,039	57,112
JMPS印刷本冊費	1,382,553	2,409,688	1,027,135
JMPSその他印刷費	441,804	764,654	322,850
通信運搬費	352,294	353,034	740
支払リース料	37,152	111,456	74,304
英文校閲費	18,311	45,150	26,839
J-Stage-EM利用料	51,700	51,700	0
集会費	1,091,329	181,014	910,315
年会開催費	1,029,729	121,074	908,655
会議費	61,600	59,940	1,660
学会賞副賞	146,928	135,060	11,868
鉱物学会賞記念品費	70,000	70,000	0
研究奨励賞記念品	40,000	40,000	0
論文賞記念品	16,158	0	16,158
応用鉱物科学賞記念品	20,770	20,770	0
渡邊萬次郎賞記念品	0	4,290	4,290
受賞者懇親会費	0	0	0
発表賞支援基金	0	0	0
Elements購読会費	576,922	639,452	62,530
管理費	4,779,293	5,356,659	577,366
支払報酬料	448,434	431,834	16,600
租税公課	0	2,700	2,700
給料手当	3,039,166	3,400,874	361,708
法定福利費	445,367	511,418	66,051
旅費交通費通勤手当	155,040	310,560	155,520
臨時雇賃金	52,000	49,000	3,000
水道光熱費	15,183	20,847	5,664
地代家賃	63,009	63,009	0
通信運搬費	263,644	265,131	1,487
支払手数料	84,643	89,135	4,492
消耗品費	162,807	152,335	10,472
支払寄付金	50,000	50,000	0
雑費	0	9,816	9,816
経常費用計	9,595,285	10,840,280	1,244,995
評価損益等調整前当期経常増減額	1,598,521	860,508	738,013
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	1,598,521	860,508	738,013
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前一般正味財産増減額	1,598,521	860,508	738,013
法人税、住民税及び事業税	109,300	184,400	75,100
当期一般正味財産増減額	1,489,221	676,108	813,113
一般正味財産期首残高	9,965,718	9,289,610	676,108
一般正味財産期末残高	11,454,939	9,965,718	1,489,221
指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
正味財産期末残高	11,454,939	9,965,718	1,489,221

(3) 財務諸表に対する注記

財務諸表に対する注記						
一般社団法人日本鉱物科学会						
1. 重要な会計方針						
(1) 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は税込方式によっている。						
2. 特定資産の増減額及びその残高 特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。						
(単位：円)						
科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高		
特定資産						
学会賞等刊行基金	3,477,060	24	0		3,477,084	
学会賞・奨励賞・論文賞基金	664,875	6,005	152,928		517,952	
渡邊萬次郎賞基金	83,169	0	0		83,169	
国際学会・年会基金	1,799,341	15	50,000		1,749,356	
小 計	6,024,445	6,044	202,928		5,827,561	
合 計	6,024,445	6,044	202,928		5,827,561	
3. 特定資産の財源等の内訳 特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。						
(単位：円)						
科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)		
特定資産						
学会賞等刊行基金	3,477,084	(0)	(3,477,084)		(0)	
学会賞・奨励賞・論文賞基金	517,952	(0)	(517,952)		(0)	
渡邊萬次郎賞基金	83,169	(0)	(83,169)		(0)	
国際学会・年会基金	1,749,356	(0)	(1,749,356)		(0)	
小 計	5,827,561	(0)	(5,827,561)		(0)	
合 計	5,827,561	(0)	(5,827,561)		(0)	
4. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。						
(単位：円)						
補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上 の記載区分
東広島市学術振興等補助金	東広島市	0	80,000	80,000	0	
合 計		0	80,000	80,000	0	

(4) 附属明細書

附属明細書	
一般社団法人日本鉱物科学会	
1. 特定資産の明細 特定資産については財務諸表に対する注記に記載しているため、附属明細書での記載を省略している。	
2. 引当金の明細 該当なし。	

2. 監査報告 (小暮監事)

次頁の監査報告書の通り。

監査報告書

2022年（令和4年）8月24日

一般社団法人日本鉱物科学会
代表理事（会長） 宮脇 律郎 殿
代表理事（副会長） 大和田 正明 殿

一般社団法人日本鉱物科学会
監事 小暮 敏博



私監事は、2021年(令和3年)8月1日から2022年(令和4年)7月31日までの一般社団法人日本鉱物科学会第6期事業年度における会計及び業務の監査を行いました。その結果につき次の通り報告いたします。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きにより計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその付属明細書の適正性を検討しました。また必要に応じて担当者から説明を受けました。
- (2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の内容を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、理事の業務執行の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

- (1) 計算書類及び付属明細書は、一般社団法人日本鉱物科学会の財政及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書は、法令及び定款に従い一般社団法人日本鉱物科学会の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の業務の執行に関し、不正な行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- (4) コロナ禍の推移や為替変動などの外因、そして会員動向など今後の学会の経常収支に影響を与える様々な不安要因が存在するため、創意工夫をもって学会活動を進めていく必要があると考えます。

以上

第2号議案 役員（理事、監事）選任の件

（選挙管理委員会委員 則竹史哉， 中村佳博， 遠藤俊祐）

2022年7月11日(月)から7月27日(水)までの間に投票いただきました，一般社団法人日本鉱物科学会次期役員選挙結果について，以下の様にお知らせします。

なお，下記定款に従い，理事候補者と監事候補者は2022年9月17日(土)に開催予定の2021年度定時総会にて選任され，

会長候補者，副会長候補者は同日開催予定の2022年度第1回定例理事会にて選定されます。

定款抜粋（役員を選任）

第20条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。

2 会長及び副会長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

投票用紙発送総数：818（内訳：WEB 778 郵送 40）

総投票数：135（内訳：WEB 129 郵送 6）

有効投票：124（内訳：WEB 118 郵送 6）

無効投票：11（内訳：WEB 11 郵送 0）

開票日：2022年7月29日

立会人：田口知樹

下記理事候補者22名，理事次点候補者1名，監事候補者1名について，一人ずつ氏名を読み上げそれぞれについて諮ります

	理事候補者	所 属	研究分野
1	大和田 正明	山口大学大学院創成科学研究科	岩石学
2	井上 徹	広島大学大学院先進理工系科学研究科	高压地球科学
3	阿部 なつ江	海洋研究開発機構	岩石学、海洋底科学
4	池田 剛	九州大学大学院理学研究院	岩石学
5	磯部 博志	熊本大学大学院先端科学研究部	地球惑星物質科学
6	大藤 弘明	東北大学大学院理学研究科	鉱物学、応用鉱物学、電子顕微鏡
7	鍵 裕之	東京大学大学院理学系研究科	地球深部物質学
8	亀井 淳志	島根大学総合理工学部	火成岩岩石学
9	川本 竜彦	静岡大学理学部	沈み込み帯流体論、マントル流体学
10	河上 哲生	京都大学大学院理学研究科	岩石学
11	興野 純	筑波大学生命環境系地球進化科学専攻	鉱物学，結晶構造解析
12	栗林 貴弘	東北大学大学院理学研究科	鉱物結晶学、鉱物学
13	黒澤 正紀	筑波大学生命環境系地球進化科学専攻	鉱物学
14	高澤 栄一	新潟大学教育研究院自然科学系	上部マントル・オフィオライト岩石学
15	辻森 樹	東北大学東北アジア研究センター	岩石学、変成岩岩石学
16	土屋 範芳	東北大学大学院環境科学研究科	環境地質、岩石学
17	富岡 尚敬	海洋研究開発機構	惑星物質科学、高压鉱物学
18	永井 隆哉	北海道大学大学院理学研究院	地球惑星科学部門 鉱物学
19	永島 真理子	山口大学大学院創成科学研究科	鉱物学・結晶学
20	坂野 靖行	産業技術総合研究所	鉱物学、地質学、EPMA 分析
21	M. Satish-Kumar	新潟大学理学部	岩石学
22	三宅 亮	京都大学大学院理学研究科	鉱物学
次点	佐藤 努	北海道大学大学院工学研究院	環境鉱物学
	監事候補者		
1	下林 典正	京都大学大学院理学研究科	鉱物学・結晶学・結晶化学

閉会宣言

各賞授賞式（宮協会長）

【1】2021年度日本鉱物科学会賞表彰

第26回受賞者：森下知晃 会員（金沢大学 理工研究域 地球社会基盤学系）

業績題目：「超苦鉄質 苦鉄質岩に着目した物質科学的アプローチによる海洋プレート及び島弧下マントルの形成・進化プロセスの研究」

【2】渡邊萬次郎賞表彰

第38回受賞者：山中 高光 名誉会員

【3】2021年度日本鉱物科学会論文賞表彰

第25回受賞論文

Title: Anatomy of Shaku-dake high-Mg diorite, southwest Japan: Lithofacies variations and growth process of high-Mg diorite stock, JMPS, 116, 83-95, 2021.

Author: Keisuke ESHIMA

受賞者：江島圭祐会員

第26回受賞論文

Title: Neutron diffraction study of hydrogen site occupancy in Fe_{0.95}Si_{0.05} at 14.7 GPa and 800 K, JMPS, 116, 309-313, 2021.

Authors: Yuichiro MORI, Hiroyuki KAGI, Sho KAKIZAWA, Kazuki KOMATSU, Chikara SHITO, Riko IIZUKA-OKU, Katsutoshi AOKI, Takanori HATTORI, Asami SANO-FURUKAWA, Ken-ichi FUNAKOSHI, Hirouyuki SAITOH

受賞者：森悠一郎会員，鍵裕之会員，柿澤翔会員，小松一生会員，佐野亜沙美会員

【4】2021年度日本鉱物科学会研究奨励賞表彰

第31回受賞者：瀧藤佑衣会員（名古屋大学大学院環境学研究科）

研究対象：「マントルにおける物質移動メカニズムを解明するための岩石鉱物物理研究」

第32回受賞者：秋澤紀克会員（東京大学大気海洋研究所）

研究対象：「上部マントルでの溶融 - 熱水活動記録の解読」

【5】2021年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞表彰

第13回受賞者：阿依アヒマディ会員（Tokyo Gem Science社，GSTV宝石学研究所）

受賞題目：「先端分析手法を適用した宝石の鑑別技術開発とデータベース構築」

【6】2021年度JMPS学生論文賞受賞論文表彰

第13回受賞論文：A new occurrence of okhotskite in the Kurosegawa belt, Kyushu, Japan: the okhotskite + Mn-lawsonite assemblage as a potential high-pressure indicator. JMPS, 115-6, 431-439, 2020.

Authors: Wataru YABUTA and Takao HIRAJIMA

受賞者：藪田 渉（投稿時：京大・M2）

第14回受賞論文：Modulated structure of hemimorphite associated with pressure-induced phase transition. JMPS, 116-5, 251-262, 2021.

Authors: Keitaro OKAMOTO, Takahiro KURIBAYASHI, and Toshiro NAGASE

受賞者：岡本 啓太郎（投稿時：東北大・D3）

【7】名誉会員認定書授与

大谷栄治シニア会員

推薦理由

大谷会員は、(1)2006年にAmerican Geophysical Union Fellowとなり、2017年には H.C. Urey Award (European Association of Geochemistry) および Humboldt Research Award (the Humboldt Foundation) 受賞、2019年には鉱物学で世界最高位の賞であるIMA medal を受賞するなど極めて高い国際的評価があり、(2)1997年に日本鉱物学会賞を受賞、2010年に紫綬褒章を受章するなど国内でも顕著な業績が認められている。また、(3) 高温高圧条件下での地球内部物質に関する研究でも世界的な業績を挙げている。なお、(4) 鉱物科学会会長・評議員等を歴任し、本会に対しても顕著な功労があった。

藤野清志シニア会員

推薦理由

(1) 2008年MSA Fellow (Mineralogical Society of America)となり、(2) 2000年に日本鉱物学会賞を受賞するなど、国内外で高い評価を得ている。(3) 主要ケイ酸塩鉱物のX線精密結晶構造解析、かんらん石やざくろ石の転位構造の研究、透過電子顕微鏡による輝石その他の鉱物の微細組織・構造の研究、ケイ酸塩ペロプスカイトを中心とした高圧鉱物の合成と相関係、結晶構造、相変態の研究などで顕著な業績をあげるとともに、研究教育活動を通じて後進の育成にも尽力されてきた。また、(4) 旧日本鉱物学会会長として学会統合に尽力され、JMPS編集委員長等を歴任するなど、本会に対しても顕著な功労があった。